

(様式第10)

弘大病経第235号

令和4年10月4日

厚生労働大臣 殿

開設者名 国立大学法人弘前大学

学長 福田 眞作

弘前大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和3年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒036-8560 青森県弘前市文京町1番地
氏名	国立大学法人弘前大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

弘前大学医学部附属病院

3 所在の場所

〒036-8563 青森県弘前市本町53番地
電話(0172) 33 - 5111

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="radio"/>	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/>	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1)内科

内科	有						
内科と組み合わせた診療科名等							
<input checked="" type="radio"/>	1呼吸器内科	<input type="radio"/>	2消化器内科	<input type="radio"/>	3循環器内科	<input type="radio"/>	4腎臓内科
<input type="radio"/>	5神経内科	<input type="radio"/>	6血液内科	<input type="radio"/>	7内分泌内科	<input type="radio"/>	8代謝内科
<input type="radio"/>	9感染症内科	<input type="radio"/>	10アレルギー疾患内科またはアレルギー科	<input type="radio"/>	11リウマチ科	<input type="radio"/>	
診療実績							
5神経内科:脳神経内科にて診療を提供 8代謝内科:糖尿病・代謝内科にて診療を提供 10アレルギー疾患内科またはアレルギー科:小児科、皮膚科及び耳鼻咽喉科にて診療を提供 11リウマチ科:整形外科及び内科にて診療を提供							

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科						有	
外科と組み合わせた診療科名							
○	1呼吸器外科	○	2消化器外科	○	3乳腺外科		4心臓外科
	5血管外科	○	6心臓血管外科		7内分泌外科	○	8小児外科
診療実績							
7内分泌外科:乳腺外科及び外科にて診療を提供							

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科	○	7産婦人科		8産科
	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻咽喉科		12放射線科
○	13放射線診断科	○	14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

- (注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科						有	
歯科と組み合わせた診療科名							
	1小児歯科		2矯正歯科	○	3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	腫瘍内科	2	糖尿病・代謝内科	3	形成外科	4	病理診断科	5	リハビリテーション科
6		7		8		9		10	
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計	(単位:床)
41	6	0	0	597	644	

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計
医師	381	11	384.9
歯科医師	15	0	15.0
薬剤師	30	0	29.0
保健師	0	0	0
助産師	20	0	20.0
看護師	608	21	622.2
准看護師	0	0	0
歯科衛生士	0	3	2.3
管理栄養士	8	0	8.0

職種	員数
看護補助者	88
理学療法士	14
作業療法士	7
視能訓練士	3
義肢装具士	0
臨床工学士	23
栄養士	0
歯科技工士	1
診療放射線技師	40

職種	員数
診療エックス線技師	0
臨床検査技師	45
衛生検査技師	0
その他	0
あん摩マッサージ指圧師	0
医療社会事業従事者	4
その他の技術員	14
事務職員	156
その他の職員	14

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	46	眼科専門医	6
外科専門医	31	耳鼻咽喉科専門医	8
精神科専門医	4	放射線科専門医	7
小児科専門医	17	脳神経外科専門医	8
皮膚科専門医	8	整形外科専門医	18
泌尿器科専門医	11	麻酔科専門医	7
産婦人科専門医	12	救急科専門医	5
		合計	188

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (大山 力) 任命年月日 令和 2 年 4 月 1 日

H24. 4. 1 ~ H28. 9.30	リスクマネジメント対策委員会委員
H28.10. 1 ~ R 2. 3.31	医療安全管理委員会委員長(医療安全管理責任者)
R 2. 4. 1 ~ 現在	医療安全管理委員会委員(病院長)

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	456.6 人	9.3 人	465.9 人
1日当たり平均外来患者数	1,578.1 人	49.6 人	1,627.7 人
1日当たり平均調剤数			2039.7 剤
必要医師数			136 人
必要歯科医師数			3 人
必要薬剤師数			27 人
必要(准)看護師数			290 人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二条の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
			病床数		心電計	
集中治療室	560.2 m ²	鉄筋コンクリート	病床数	26 床	心電計	有
			人工呼吸装置	有	心細動除去装置	有
			その他の救急蘇生装置	有	ペースメーカー	有
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	43 m ²	病床数	3 床	
	[移動式の場合]	台数	台			
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床面積	175 m ²			
	[共用室の場合]	共用する室名	薬剤部薬物療法支援室			
化学検査室	300 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	免疫発光測定装置・電気化学発光測定装置 等		
細菌検査室	117 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	安全キャビネット・高圧蒸気滅菌装置・テーブルトップ遠心機 等		
病理検査室	148 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	自動染色装置・検体前処理装置 等		
病理解剖室	66 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	ホルマリン希釈混合装置・電動解剖鋸 等		
研究室	10,356 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	遺伝子発現・薬剤分析システム・パーソナル次世代シーケンサー 等		
講義室	274 m ²	鉄骨	室数	1 室	収容定員	205 人
図書室	1,341 m ²	鉄筋コンクリート	室数	3 室	蔵書数	158,000 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	85.7 %	逆紹介率	69.7 %
算出根拠	A: 紹介患者の数		10,729 人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		9,809 人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		1,335 人
	D: 初診の患者の数		14,077 人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
藤野 安弘	青森県立中央病院 病院長	○	医療に係る安全管理に関する 識見を有する者	無	1
相馬 悌	黒石市国民健康保険黒石病院 病院事業管理者		医療に係る安全管理に関する 識見を有する者	無	1
長谷河 亜希子	弘前大学人文社会科学部 公共政策講座 准教授		法律に関する識見を有する者	無	1
齋藤 久子	元青森大学准教授		医療を受ける者	無	2
大門 眞	弘前大学大学院医学研究科 内分泌代謝内科学講座 教授 (副病院長)		医療に係る安全管理に関する 識見を有する者	有	1
加藤 博之	弘前大学大学院医学研究科 総合診療医学講座 教授 (病院長補佐)		医療に係る安全管理に関する 識見を有する者	有	1

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
附属病院ホームページに掲載	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数 (人)
抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子検査	30
先進医療の種類合計数	1
取扱い患者数の合計(人)	30

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	
扱い患者数の合計(人)	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	4	61	自己免疫性溶血性貧血	0
2	筋萎縮性側索硬化症	11	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	0
3	脊髄性筋萎縮症	0	63	特発性血小板減少性紫斑病	17
4	原発性側索硬化症	1	64	血栓性血小板減少性紫斑病	1
5	進行性核上性麻痺	3	65	原発性免疫不全症候群	2
6	パーキンソン病	102	66	IgA腎症	22
7	大脳皮質基底核変性症	3	67	多発性嚢胞腎	24
8	ハンテントン病	0	68	黄色靱帯骨化症	11
9	神経有棘赤血球症	0	69	後縦靱帯骨化症	86
10	シャルコー・マリー・トウス病	1	70	広範脊柱管狭窄症	2
11	重症筋無力症	43	71	特発性大腿骨頭壊死症	50
12	先天性筋無力症候群	0	72	下垂体性ADH分泌異常症	11
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	50	73	下垂体性TSH分泌亢進症	1
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	6	74	下垂体性PRL分泌亢進症	5
15	封入体筋炎	3	75	クッシング病	5
16	クドウ・深瀬症候群	0	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
17	多系統萎縮症	9	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	21
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	45	78	下垂体前葉機能低下症	94
19	ライソゾーム病	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0
20	副腎白質ジストロフィー	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
21	ミトコンドリア病	2	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	5
22	もやもや病	18	82	先天性副腎低形成症	0
23	プリオン病	1	83	アジソン病	0
24	亜急性硬化性全脳炎	0	84	サルコイドーシス	77
25	進行性多巣性白質脳症	1	85	特発性間質性肺炎	26
26	HTLV-1関連脊髄症	0	86	肺動脈性肺高血圧症	9
27	特発性基底核石灰化症	1	87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	0
28	全身性アミロイドーシス	12	88	慢性血栓性肺高血圧症	10
29	ウルリッヒ病	0	89	リンパ脈管筋腫症	3
30	遠位型ミオパチー	2	90	網膜色素変性症	32
31	ベスレムミオパチー	0	91	バッド・キアリ症候群	2
32	自己食空胞性ミオパチー	0	92	特発性門脈圧亢進症	1
33	シュワルツ・ヤンベル症候群	0	93	原発性胆汁性肝硬変	20
34	神経線維腫症	12	94	原発性硬化性胆管炎	2
35	天疱瘡	13	95	自己免疫性肝炎	7
36	表皮水疱症	4	96	クローン病	119
37	膿疱性乾癬(汎発型)	9	97	潰瘍性大腸炎	242
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	0	98	好酸球性消化管疾患	0
39	中毒性表皮壊死症	0	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
40	高安動脈炎	15	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
41	巨細胞性動脈炎	2	101	腸管神経節細胞減少症	0
42	結節性多発動脈炎	3	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
43	顕微鏡的多発血管炎	13	103	CFC症候群	0
44	多発血管炎性肉芽腫症	3	104	コステロ症候群	0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	11	105	チャージ症候群	0
46	悪性関節リウマチ	11	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
47	バージャー病	1	107	若年性特発性関節炎 旧病名(全身型若年性特発性関節炎)	5
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	2	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	208	109	非典型溶血性尿毒症症候群	0
50	皮膚筋炎／多発性筋炎	54	110	ブラウ症候群	0
51	全身性強皮症	57	111	先天性ミオパチー	0
52	混合性結合組織病	29	112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0
53	シェーグレン症候群	22	113	筋ジストロフィー	5
54	成人スチル病	17	114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	3	115	遺伝性周期性四肢麻痺	0
56	ペーチェット病	89	116	アトピー性脊髄炎	0
57	特発性拡張型心筋症	23	117	脊髄空洞症	3
58	肥大型心筋症	9	118	脊髄髄膜瘤	0
59	拘束型心筋症	0	119	アイザックス症候群	0
60	再生不良性貧血	9	120	遺伝性ジストニア	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
121	神経フェリチン症	0	181	クルーゾン症候群	0
122	脳表ヘモジドリン沈着症	1	182	アペール症候群	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	183	ファイファー症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0	184	アントレー・ピクスラー症候群	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	185	コフィン・シリズ症候群	0
126	ペリー症候群	0	186	ロスマンド・トムソン症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	0	187	歌舞伎症候群	0
128	ピッカー・スタッフ脳幹脳炎	0	188	多脾症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	189	無脾症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	190	鰓耳腎症候群	0
131	アレキサンダー病	0	191	ウェルナー症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	192	コケイン症候群	0
133	メビウス症候群	0	193	ブラダー・ウィリ症候群	1
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	194	ソトス症候群	0
135	アイカルディ症候群	1	195	ヌーナン症候群	0
136	片側巨脳症	0	196	ヤング・シンプソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	197	1p36欠失症候群	0
138	神経細胞移動異常症	1	198	4p欠失症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	199	5p欠失症候群	0
140	ドラベ症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	201	アンジェルマン症候群	0
142	ミオクロニー欠神てんかん	0	202	スミス・マガニス症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	203	22q11.2欠失症候群	0
144	レノックス・ガストー症候群	0	204	エマヌエル症候群	0
145	ウエスト症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
146	大田原症候群	0	206	脆弱X症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	207	総動脈幹遺残症	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	208	修正大血管転位症	1
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	209	完全大血管転位症	2
150	環状20番染色体症候群	0	210	単心室症	5
151	ラスムツェン脳炎	0	211	左心低形成症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	212	三尖弁閉鎖症	2
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	1	214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	215	ファロー四徴症	4
156	レット症候群	0	216	両大血管右室起始症	1
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	217	エプスタイン病	0
158	結節性硬化症	1	218	アルポート症候群	0
159	色素性乾皮症	1	219	ギャロウェイ・モフト症候群	0
160	先天性魚鱗癬	0	220	急速進行性糸球体腎炎	0
161	家族性良性慢性天疱瘡	0	221	抗糸球体基底膜腎炎	3
162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	8	222	一次性ネフローゼ症候群	44
163	特異性後天性全身性無汗症	1	223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	2
164	眼皮膚白皮症	0	224	紫斑病性腎炎	1
165	肥厚性皮膚骨膜炎	1	225	先天性腎性尿崩症	0
166	弾性線維性仮性黄色腫	0	226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	0
167	マルファン症候群	2	227	オスラー病	5
168	エーラス・ダンロス症候群	1	228	閉塞性細気管支炎	0
169	メンケス病	0	229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	2
170	オクシピタル・ホーン症候群	0	230	肺胞低換気症候群	0
171	ウィルソン病	6	231	α1-アンチトリプシン欠乏症	1
172	低ホスファターゼ症	0	232	カーニー複合	0
173	VATER症候群	0	233	ウォルフラム症候群	0
174	那須・ハコラ病	0	234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0
175	ウィーバー症候群	0	235	副甲状腺機能低下症	1
176	コフィン・ローリー症候群	0	236	偽性副甲状腺機能低下症	2
177	ジュベール症候群関連疾患 旧病名(有馬症候群)	0	237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0
178	モワット・ウィルソン症候群	0	238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	3
179	ウィリアムズ症候群	0	239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0
180	ATR-X症候群	0	240	フェニルケトン尿症	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
241	高チロシン血症1型	0	301	黄斑ジストロフィー	1
242	高チロシン血症2型	0	302	レーベル遺伝性視神経症	0
243	高チロシン血症3型	0	303	アッシャー症候群	0
244	メープルシロップ尿症	0	304	若年発症型両側性感音難聴	1
245	プロピオン酸血症	0	305	遅発性内リンパ水腫	0
246	メチルマロン酸血症	0	306	好酸球形副鼻腔炎	68
247	イソ吉草酸血症	0	307	カナバン病	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	308	進行性白質脳症	0
249	グルタル酸血症1型	0	309	進行性ミオクローヌステんかん	0
250	グルタル酸血症2型	0	310	先天異常症候群	0
251	尿素サイクル異常症	0	311	先天性三尖弁狭窄症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	312	先天性僧帽弁狭窄症	0
253	先天性葉酸吸収不全	0	313	先天性肺静脈狭窄症	0
254	ポルフィリン症	0	314	左肺動脈右肺動脈起始症	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/LMX1B関連腎症	0
256	筋型糖原病	0	316	カルニチン回路異常症	0
257	肝型糖原病	0	317	三頭酵素欠損症	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	318	シトリン欠損症	0
259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0	319	セピアブテリン還元酵素(SR)欠損症	0
260	シトステロール血症	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
261	タンジール病	0	321	非ケト-シス型高グリシン血症	0
262	原発性高カイロミクロン血症	0	322	β -ケトチオラーゼ欠損症	0
263	脳髄黄色腫症	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
264	無 β リポタンパク血症	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
265	脂肪萎縮症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
266	家族性地中海熱	5	326	大理石骨病	0
267	高IgD症候群	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
268	中條・西村症候群	0	328	前眼部形成異常	0
269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0	329	無虹彩症	0
270	慢性再発性多発性骨髄炎	1	330	先天性気管狭窄症/先天性声門下狭窄症 旧病名(先天性気管狭窄症)	0
271	強直性脊椎炎	6	331	特発性多中心性キャッスルマン病	3
272	進行性骨化性線維異形成症	1	332	膠様滴状角膜ジストロフィー	0
273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0	333	ハッチンソン・ギルフォード症候群	0
274	骨形成不全症	0	334	脳クレアチン欠乏症候群	0
275	タナトフォリック骨異形成症	0	335	ネフロン癆	0
276	軟骨無形成症	0	336	家族性低 β リポタンパク血症1(ホモ接合体)	0
277	リンパ管腫症/ゴ-ハム病	0	337	ホモシスチン尿症	0
278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	1	338	進行性家族性肝内胆汁うっ滞症	0
279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0	339		
280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0	340		
281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	0	341		
282	先天性赤血球形成異常性貧血	0	342		
283	後天性赤芽球癆	4	343		
284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	1	344		
285	ファンconi貧血	0	345		
286	遺伝性鉄芽球性貧血	0	346		
287	エプスタイン症候群	1	347		
288	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症	1	348		
289	クロンカイト・カナダ症候群	0	349		
290	非特異性多発性小腸潰瘍症	1	350		
291	ヒルシスプルング病(全結腸型又は小腸型)	0	351		
292	総排泄腔外反症	1	352		
293	総排泄腔遺残	1	353		
294	先天性横隔膜ヘルニア	0	354		
295	乳幼児肝巨大血管腫	0	355		
296	胆道閉鎖症	6	356		
297	アラジール症候群	0	357		
298	遺伝性膝炎	0	358		
299	嚢胞性線維症	0	359		
300	IgG4関連疾患	8	360		

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	123
合計患者数(人)	2,073

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 地域歯科診療支援病院歯科初診料	・ データ提出加算2
・ 歯科外来診療環境体制加算2	・ 入退院支援加算2
・ 歯科診療特別対応連携加算	・ 精神疾患診療体制加算
・ 特定機能病院入院基本料	・ 救命救急入院料4
・ 救急医療管理加算	・ 特定集中治療室管理料1
・ 超急性期脳卒中加算	・ ハイケアユニット入院医療管理料1
・ 診療録管理体制加算1	・ 新生児特定集中治療室管理料2
・ 医師事務作業補助体制加算2	・ 小児入院医療管理料2
・ 急性期看護補助体制加算	・ 看護職員処遇改善評価料63
・ 看護職員夜間配置加算1	・
・ 看護補助加算2	・
・ 療養環境加算	・
・ 重症者等療養環境特別加算	・
・ 放射線治療病室管理加算	・
・ 無菌治療室管理加算1	・
・ 緩和ケア診療加算	・
・ 精神科身体合併症管理加算	・
・ 栄養サポートチーム加算	・
・ 医療安全対策加算1	・
・ 感染対策向上加算1	・
・ 患者サポート体制充実加算	・
・ 褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ ハイリスク妊娠管理加算	・
・ ハイリスク分娩等管理加算	・
・ 後発医薬品使用体制加算2	・
・ 病棟薬剤業務実施加算1	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 外来栄養食事指導料(注3)	・ 医療機器安全管理料2
・ 心臓ペースメーカー指導管理料の注5に掲げる遠隔モニタリング加算	・ 精神科退院時共同指導料2
・ 糖尿病合併症管理料	・ 歯科治療時医療管理料
・ がん性疼痛緩和指導管理料	・ 在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
・ がん患者指導管理料イ	・ 持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)
・ がん患者指導管理料ロ	・ 持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)
・ がん患者指導管理料ハ	・ 遺伝学的検査
・ がん患者指導管理料ニ	・ 染色体検査の注2に規定する施設基準
・ 外来緩和ケア管理料	・ 骨髄微小残存病変量測定
・ 移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・ BRCA1/2遺伝子検査
・ 移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・ がんゲノムプロファイリング検査
・ 糖尿病透析予防指導管理料	・ 先天性代謝異常症検査
・ 小児運動器疾患指導管理料	・ 抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)
・ 婦人科特定疾患治療管理料	・ HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
・ 腎代替療法指導管理料	・ 検体検査管理加算(IV)
・ 一般不妊治療管理料	・ 国際標準検査管理加算
・ 生殖補助医療管理料1	・ 遺伝カウンセリング加算
・ 二次性骨折予防継続管理料1・3	・ 遺伝性腫瘍カウンセリング加算
・ 院内トリアージ実施料	・ 心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
・ 外来放射線照射診療料	・ 時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
・ 外来腫瘍化学療法診療料1・連携充実加算	・ 胎児心エコー法
・ がん治療連携計画策定料	・ ヘッドアップティルト試験
・ ハイリスク妊産婦連携指導料1	・ 人工臓器検査
・ ハイリスク妊産婦連携指導料2	・ 皮下連続式グルコース測定
・ 肝炎インターフェロン治療計画料	・ 長期継続頭蓋内脳波検査
・ 薬剤管理指導料	・ 神経学的検査
・ 医療機器安全管理料1	・ 補聴器適合検査

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・黄斑局所網膜電図	・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
・全視野精密網膜電図	・がん患者リハビリテーション料
・ロービジョン検査判断料	・歯科口腔リハビリテーション料2
・小児食物アレルギー負荷検査	・児童思春期精神科専門管理加算(通院・在宅精神療法)
・内服・点滴誘発試験	・認知療法・認知行動療法1
・センチネルリンパ節生検(片側)	・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)
・前立腺針生検法(MRI撮影及び超音波検査融合画像によるもの)	・硬膜外自家血注入
・経気管支凍結生検法	・人工腎臓 慢性維持透析を行った場合1
・精密触覚機能検査	・導入期加算3及び腎代替療法実績加算
・画像診断管理加算1	・透析液水質確保加算
・画像診断管理加算2	・移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法
・ポジトロン断層撮影、ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	・人工膵臓療法
・CT撮影及びMRI撮影	・歩行運動処置(ロボットスーツによるもの)
・冠動脈CT撮影加算	・手術用顕微鏡加算
・血流予備量比コンピューター断層撮影	・口腔粘膜処置
・外傷全身CT加算	・CAD/CAM冠及びCAD/CAMインレー
・心臓MRI撮影加算	・有床義歯修理及び有床義歯内面適合法の歯科技工加算1及び2
・乳房MRI撮影加算	・皮膚悪性腫瘍切除術(センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。)
・小児鎮静下MRI撮影加算	・四肢・躯幹軟部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手術の注に掲げる処理骨再加算
・頭部MRI撮影加算	・組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る。)
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)
・外来化学療法加算1	・後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)
・無菌製剤処理料	・椎間板内酵素注入療法
・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)	・原発性悪性脳腫瘍光線力学療法加算
・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)	・脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)	・癒着性脊髄くも膜炎手術(脊髄くも膜剥離操作を行うもの)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(便失禁に対して実施する場合)	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・角結膜悪性腫瘍切除手術	・胸腔鏡下弁形成術及び胸腔鏡下弁置換術
・羊膜移植術	食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃・十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)及び膈腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	
・緑内障手術(流出路再建術(眼内法)及び(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術))	・経カテーテル弁置換術
・緑内障手術(濾過泡再建術(needle法))	・経皮的僧帽弁クリップ術
・網膜再建術	・不整脈手術(左心耳閉鎖術)(胸腔鏡下によるもの)
・経外耳道的内視鏡下鼓室形成術	・不整脈手術 左心耳閉鎖術(経カテーテル的手術によるもの)
・人工中耳植込術	・経皮的中隔心筋焼灼術
・人工内耳植込術	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
・植込型骨導補聴器(直接振動型)植込術	・両心室ペースメーカー移植術(心筋電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(心筋電極の場合)
・耳管用補綴材挿入術	・両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)及び ・経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術(頭蓋底郭清、再建を伴うもの)	・植込型除細動器移植術(心筋リードを用いるもの)及び植込型除細動器交換術(心筋リードを用いるもの)
・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)	植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極抜去術
・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術	
・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)	両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(心筋電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(心筋電極の場合)
・顎関節人工関節全置換術(歯科診療に係るものに限る。)	両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)
・乳腺悪性腫瘍手術(乳がんセンチネルリンパ節加算1又は乳がんセンチネルリンパ節加算2を算定する場合に限る。)	・大動脈バルーンポンピング法(IABP法)
・乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))	
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)
・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除) (内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・補助人工心臓
・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもの) (内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・経皮的下肢動脈形成術
・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(気管支形成を伴う肺切除)	・内視鏡的逆流防止粘膜切除術
・内視鏡下筋層切開術	・バルーン閉塞下経静脈的塞栓術

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)	人工尿道括約筋植込・置換術
・腹腔鏡下肝切除術	膀胱頸部形成術(膀胱頸部吊上術以外)、埋没陰茎手術、陰嚢水腫手術(鼠径部切開によるもの)
腹腔鏡下胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))	・精巣内精子採取術 ・腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術
腹腔鏡下噴門側胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下噴門側胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの) ・腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
腹腔鏡下胃全摘術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃全摘術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合) ・腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術
・生体部分肝移植術	・体外式膜型人工肺管理料
・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術及び腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術	・胃瘻造設術(内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)
・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術)
・腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	
・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	・輸血管理料Ⅰ
・内視鏡的小腸ポリープ切除術	・貯血式自己血輸血管理体制加算
・腹腔鏡下小切開副腎摘出術	・自己生体組織接着剤作成術
・腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・自己クリオプレシビテート作製術(用手法)
・腹腔鏡下小切開腎部分切除術、腹腔鏡下小切開腎摘出術、腹腔鏡下小切開腎(尿管)悪性腫瘍手術	・同種クリオプレシビテート作製術
・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・胃瘻造設時嚥下機能評価加算 ・歯周組織再生誘導手術
・腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・同種死体腎移植術	・歯根端切除手術の注3
・生体腎移植術	・口腔粘膜血管腫凝固術
・膀胱水圧拡張術	・レーザー機器加算
・腹腔鏡下小切開膀胱腫瘍摘出術	・麻酔管理料(Ⅰ)
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・麻酔管理料(Ⅱ)
・腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術	・放射線治療専任加算

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ② 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	・消化器(内科・外科)病理合同カンファレンス週1回 ・泌尿器・病理合同カンファレンス週1回 ・細胞診カンファレンス月1回 ・脳神経外科・病理合同カンファレンス月1～2回 ・婦人科・病理合同カンファレンス月1回 ・呼吸器・病理合同カンファレンス週1回 ・リンパ腫カンファレンス月1回 ・その他不定期の検討会月数回程度	
剖 検 の 状 況	剖検症例数(例)	32
	剖検率(%)	17.2

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
神経発達障害の脆弱性と予測因子に関する研究	中村和彦	大学院医学研究科神経精神医学講座	3,900,000円	補委 日本学術振興会
ダウン症候群に伴う急性巨核芽球性白血病発症の分子機構の解明と分子標的療法の開発	伊藤悦朗	大学院医学研究科地域医療学講座	4,100,000円	補委 日本学術振興会
深層学習法による高齢者術後うつ病の術前予測と発症機序・予防に関する基礎的研究	廣田和美	大学院医学研究科麻酔科学講座	3,000,000円	補委 日本学術振興会
ドバミン部分アゴニストによる低プロラクチン血症のリスク因子と臨床的意義	橋本浩二郎	医学部附属病院神経科精神科	400,000円	補委 日本学術振興会
ストレスコントロールを指向した周術期管理法の探求～局所麻酔薬の有用性～	北山眞任	医学部附属病院手術部	400,000円	補委 日本学術振興会
難治性うつ病に対するケタミンの抗うつ作用の評価と機序解明へのアプローチ	工藤隆司	医学部附属病院麻酔科	700,000円	補委 日本学術振興会
TGF-betaシグナルに着目した栄養障害型表皮水疱症の線維化メカニズム	赤坂英二郎	医学部附属病院皮膚科	800,000円	補委 日本学術振興会
表皮細胞由来VII型コラーゲンの毛包構造維持に果たす役割の解明	松崎康司	医学部附属病院皮膚科	1,100,000円	補委 日本学術振興会
水疱性類天疱瘡患者自己抗体の可変領域の統合的な解析	皆川智子	医学部附属病院検査部	1,100,000円	補委 日本学術振興会
自律神経機能調節に注目した新しい集中治療時の鎮静法の探求	外崎充	医学部附属病院集中治療部	1,200,000円	補委 日本学術振興会
口腔癌の化学療法誘発口腔粘膜炎に伴う顎骨露出メカニズムの解明	久保田耕世	医学部附属病院歯科口腔外科	1,100,000円	補委 日本学術振興会
超音波検査の基礎学習用シミュレーターの開発	小林只	医学部附属病院総合診療部	500,000円	補委 日本学術振興会
ポリフェノールのコレステロール搬出増強作用に着目した新規糖尿病発症予防分子の同定	松木恒太	医学部附属病院内分泌内科、糖尿病代謝内科	1,100,000円	補委 日本学術振興会
卵巣奇形腫におけるゲノムインプリンティング異常と分化成熟度の関係性の解明	加藤哲子	医学部附属病院病理部	800,000円	補委 日本学術振興会
好中球エラスターゼ阻害剤による放射線肺臓炎予防効果の解明	畑山佳臣	医学部附属病院放射線部	400,000円	補委 日本学術振興会
Diamond-Blackfan貧血に合併する悪性腫瘍発症機構の解明	神尾卓哉	医学部附属病院小児科	1,300,000円	補委 日本学術振興会
赤血球分化における転写因子IRX1の機能の解明	佐藤知彦	医学部附属病院小児科	1,200,000円	補委 日本学術振興会
ランゲルハンス細胞組織球症 (LCH) における骨髄病変の分子機構の解明	工藤耕	医学部附属病院小児科	1,000,000円	補委 日本学術振興会
レチノイン酸によるマクロファージ・パイロトシス制御機構	平賀寛人	医学部附属病院消化器内科、血液内科、膠原病内科	1,300,000円	補委 日本学術振興会
ビッグデータを用いた口腔内・腸内細菌叢における胃酸分泌能の新たな役割の解明	珍田大輔	医学部附属病院光学医療診療部	2,000,000円	補委 日本学術振興会
神経発達障害の脆弱性と予測因子に関する研究	中村和彦	大学院医学研究科神経精神医学講座	3,900,000円	補委 日本学術振興会
ダウン症候群に伴う急性巨核芽球性白血病発症の分子機構の解明と分子標的療法の開発	伊藤悦朗	大学院医学研究科地域医療学講座	4,100,000円	補委 日本学術振興会
深層学習法による高齢者術後うつ病の術前予測と発症機序・予防に関する基礎的研究	廣田和美	大学院医学研究科麻酔科学講座	3,000,000円	補委 日本学術振興会
ドバミン部分アゴニストによる低プロラクチン血症のリスク因子と臨床的意義	橋本浩二郎	医学部附属病院神経科精神科	400,000円	補委 日本学術振興会
ストレスコントロールを指向した周術期管理法の探求～局所麻酔薬の有用性～	北山眞任	医学部附属病院手術部	400,000円	補委 日本学術振興会
難治性うつ病に対するケタミンの抗うつ作用の評価と機序解明へのアプローチ	工藤隆司	医学部附属病院麻酔科	700,000円	補委 日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
TGF-betaシグナルに着目した栄養障害型表皮水疱症の線維化メカニズム	赤坂英二郎	医学部附属病院皮膚科	800,000円	補委 日本学術振興会
表皮細胞由来VII型コラーゲンの毛包構造維持に果たす役割の解明	松崎康司	医学部附属病院皮膚科	1,100,000円	補委 日本学術振興会
水疱性類天疱瘡患者自己抗体の可変領域の統合的な解析	皆川智子	医学部附属病院検査部	1,100,000円	補委 日本学術振興会
自律神経機能調節に注目した新しい集中治療時の鎮静法の探求	外崎充	医学部附属病院集中治療部	1,200,000円	補委 日本学術振興会
口腔癌の化学療法誘発口腔粘膜炎に伴う顎骨露出メカニズムの解明	久保田耕世	医学部附属病院歯科口腔外科	1,100,000円	補委 日本学術振興会
超音波検査の基礎学習用シミュレーターの開発	小林只	医学部附属病院総合診療部	500,000円	補委 日本学術振興会
ポリフェノールのコレステロール搬出増強作用に着目した新規糖尿病発症予防分子の同定	松木恒太	医学部附属病院内分泌内科, 糖尿病代謝内科	1,100,000円	補委 日本学術振興会
卵巣奇形腫におけるゲノムインプリンティング異常と分化成熟度の関係性の解明	加藤哲子	医学部附属病院病理部	800,000円	補委 日本学術振興会
好中球エラスターゼ阻害剤による放射線肺臓炎予防効果の解明	畑山佳臣	医学部附属病院放射線部	400,000円	補委 日本学術振興会
Diamond-Blackfan貧血に合併する悪性腫瘍発症機構の解明	神尾卓哉	医学部附属病院小児科	1,300,000円	補委 日本学術振興会
赤血球分化における転写因子IRX1の機能の解明	佐藤知彦	医学部附属病院小児科	1,000,000円	補委 日本学術振興会
ランゲルハンス細胞組織球症 (LCH) における骨髄病変の分子機構の解明	工藤耕	医学部附属病院小児科	1,000,000円	補委 日本学術振興会
レチノイン酸によるマクロファージ・パイロトーシス制御機構	平賀寛人	医学部附属病院消化器内科, 血液内科, 膠原病内科	1,300,000円	補委 日本学術振興会
ビッグデータを用いた口腔内・腸内細菌叢における胃酸分泌能の新たな役割の解明	珍田大輔	医学部附属病院光学医療診療部	2,000,000円	補委 日本学術振興会
発達性協調運動障害の視覚情報処理機能の解明	吉田和貴	大学院医学研究科神経精神医学講座	300,000円	補委 日本学術振興会
術後アウトカム指向麻酔法の探求: 内因性睡眠物質を応用した円滑な周術期管理への道標	櫛方哲也	大学院医学研究科麻酔科学講座	800,000円	補委 日本学術振興会
自閉スペクトラム症超早期介入法の日本における実用可能なプロトタイプの実験的効果	大里絢子	大学院医学研究科神経精神医学講座	500,000円	補委 日本学術振興会
三次元超微形態学的解析による関節リウマチの炎症慢性化の解明	黒瀬理恵	大学院医学研究科整形外科学講座	500,000円	補委 日本学術振興会
発達障害の併存・合併症問題の精神病理の解明と個別化した早期治療の探求	廣田智也	大学院医学研究科神経精神医学講座	700,000円	補委 日本学術振興会
内視鏡を用いた自閉スペクトラム症の腸内細菌叢を明らかにすることによる病態解明	久保一利	大学院医学研究科神経精神医学講座	700,000円	補委 日本学術振興会
発達性協調運動障害の内部モデル障害仮説の検証と乳幼児期の予後因子の解明	斉藤まなぶ	大学院医学研究科神経精神医学講座	700,000円	補委 日本学術振興会
冠動脈狭窄症におけるカルモジュリンキナーゼの役割と新たな治療戦略の開発	富田泰史	大学院医学研究科循環器腎臓内科学講座	1,300,000円	補委 日本学術振興会
間質抑制による癌軟化作用を介した膀胱癌治療の開発	工藤大輔	大学院医学研究科消化器外科学講座	600,000円	補委 日本学術振興会
進行再発大腸癌に対する新規治療薬ヒアルロン酸合成阻害剤の作用機序の解明	坂本義之	大学院医学研究科大腸・北秋田地域医療推進学講座	800,000円	補委 日本学術振興会
外科専門医手術技術トレーニングにおける注視視点解析の有効性に関する研究	皆川正仁	大学院医学研究科胸部心臓血管外科学講座	400,000円	補委 日本学術振興会
癌切除を受ける患者の予後を改善するための全身麻酔薬の探求—理想的な鎮痛薬は?—	丹羽英智	大学院医学研究科地域周術期管理医学講座	1,200,000円	補委 日本学術振興会
炎症性ケモカインCCL2阻害薬によるグリオーマ腫瘍幹細胞休止期駆逐療法の基礎研究	浅野研一郎	大学院医学研究科脳神経外科学講座	1,000,000円	補委 日本学術振興会
視細胞保護治療を目的とした新規カルバイン抑制ペプチド徐放システムの開発	中澤満	大学院医学研究科眼科学講座	1,100,000円	補委 日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
胃内環境の変化が腸内細菌叢を介して糖代謝に及ぼす影響	下山克	大学院医学研究科消化器血液内科学講座	500,000円	補委 日本学術振興会
13C乳糖を用いた乳糖不耐症における乳糖消化吸収動態の解明と効果的な治療法の検討	柳町幸	大学院医学研究科むつ下北地域医療学講座	600,000円	補委 日本学術振興会
小児期の逆境的体験（家庭および学校）と引きこもりの関連	和久田学	大学院医学研究科神経精神医学講座	1,000,000円	補委 日本学術振興会
DNA傷害からみた癌幹細胞性維持機構の違い. glioblastomaをモデルに	黒瀬顕	大学院医学研究科病理診断学講座	800,000円	補委 日本学術振興会
拡散係数と糖代謝・腫瘍血流量を組み合わせた肺癌定位照射における予後予測法の確立	青木昌彦	大学院医学研究科放射線腫瘍学講座	800,000円	補委 日本学術振興会
タンデム重複変異RUNX1の白血病発症における機能解析	土岐力	大学院医学研究科小児科学講座	1,100,000円	補委 日本学術振興会
ダウン症関連白血病における転写制御破綻機序の解明	金崎里香	大学院医学研究科小児科学講座	1,100,000円	補委 日本学術振興会
障害肝に対する大量肝切除を目指した有機アニオントランスポーターの発現解析	木村憲央	大学院医学研究科消化器外科学講座	1,100,000円	補委 日本学術振興会
プレグナンX受容体を介する大動脈弁異所性石灰化機序の解明と病態生理学的意義の実証	大徳和之	大学院医学研究科医療安全学講座	1,100,000円	補委 日本学術振興会
血管内皮細胞を標的とした次世代癌特異的中性子補足療法の開発	畠山真吾	大学院医学研究科先進血液浄化療法学講座	1,300,000円	補委 日本学術振興会
Carbonyl reductase 1を標的とした進行卵巣癌治療戦略の新展開	横山良仁	大学院医学研究科産科婦人科学講座	1,000,000円	補委 日本学術振興会
医学生に対する超音波検査の教育：膀胱シミュレータを用いた確実な初期教育方法の検証	米田博輝	大学院医学研究科総合地域医療推進学講座	900,000円	補委 日本学術振興会
線条体神経細胞の異常可塑性が遅発性ジスキネジアの原因か？	富山誠彦	大学院医学研究科脳神経内科学講座	900,000円	補委 日本学術振興会
ダウン症のTAMにおけるGATA1変異タイプと巨核球分化・白血病進展との関連	照井君典	大学院医学研究科小児科学講座	1,300,000円	補委 日本学術振興会
新規水疱性類天疱瘡モデルマウスを用いた抗BP230自己抗体の解析	澤村大輔	大学院医学研究科皮膚科学講座	1,100,000円	補委 日本学術振興会
遺伝性ポルフィリン症におけるヘム合成に関する新規代謝経路の解明	中野創	大学院医学研究科皮膚科学講座	800,000円	補委 日本学術振興会
プロオピオメラノコルチン遺伝子の転写抑制メカニズムの解明	高安忍	大学院医学研究科内分泌代謝内科学講座	900,000円	補委 日本学術振興会
新規ゲノム機能解析法による微小腫瘍検出法の開発	袴田健一	大学院医学研究科消化器外科学講座	1,200,000円	補委 日本学術振興会
糖鎖解析による転移性尿路上皮癌に対する免疫CP阻害剤の新たなコンパニオン診断開発	橋本安弘	大学院医学研究科泌尿器科学講座	600,000円	補委 日本学術振興会
マイクロバイオーム解析による上気道難治性アレルギー性・好酸球性炎症の病態解明	松原篤	大学院医学研究科耳鼻咽喉科学講座	900,000円	補委 日本学術振興会
生活習慣病の予防法確立を目指した経年的口腔内細菌叢変化と生活習慣病の関係解明	小林恒	大学院医学研究科歯科口腔外科学講座	1,600,000円	補委 日本学術振興会
中央一括審査時代における「質の高い倫理委員会」モデルケースの検討	栗林航	大学院医学研究科医療倫理学講座	1,000,000円	補委 日本学術振興会
大規模調査による非アルコール性脂肪性肝疾患の病態とPAI-1との関連の解明	三上健一郎	大学院医学研究科消化器血液内科学講座	1,000,000円	補委 日本学術振興会
生活習慣因子との相互関係を考慮した既知生活習慣病感受性遺伝因子の臨床応用	大門眞	大学院医学研究科内分泌代謝内科学講座	1,100,000円	補委 日本学術振興会
分子標的ホウ素中性子捕捉療法の開発	大山力	大学院医学研究科泌尿器科学講座	5,600,000円	補委 日本学術振興会
バーチャルリアリティを用いたプレハビリテーションプログラムによる術後論妄予防	廣田和美	大学院医学研究科麻酔科学講座	1,800,000円	補委 日本学術振興会
がん微小環境における癌関連線維芽細胞のmTORシグナル制御によるがん治療の新展開	古舘健	医学部附属病院歯科口腔外科	2,334,299円	補委 日本学術振興会
微細酸素気泡の血液溶解を利用した小型人工肺と圧電素子を用いた小型血流ポンプの開発	小渡亮介	医学部附属病院呼吸器外科、心臓血管外科	100,000円	補委 日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
e-Sportsによるうつ病治療増強療法の確立とその生物学的機序の解明	富田哲	医学部附属病院神経科精神科	1,200,000円	補委 日本学術振興会
自閉スペクトラム症の早期療育の有効性に関するメカニズムの解明	坂本由唯	医学部附属病院神経科精神科	1,200,000円	補委 日本学術振興会
更なる低侵襲化の為に乳癌センチネルリンパ節転移CT判定法とリンパ解剖の解明	藤田環	医学部附属病院放射線診断科	800,000円	補委 日本学術振興会
ヨード密度とグルコース代謝を指標とした食道癌に対する放射線感受性の予測	藤岡一太郎	医学部附属病院放射線治療科	300,000円	補委 日本学術振興会
腸内環境からNAFLD、NASH進展への解明：メタゲノム解析とメタボローム解析	飯野勢	医学部附属病院消化器内科、血液内科、膠原病内科	600,000円	補委 日本学術振興会
オレキシン神経系が敗血症関連脳症及び敗血症に伴う睡眠障害に与える影響	竹川大貴	医学部附属病院麻酔科	1,400,000円	補委 日本学術振興会
くも膜下出血後早期脳損傷におけるLOX-1の役割	松田尚也	医学部附属病院リハビリテーション科	800,000円	補委 日本学術振興会
生物学的製剤は脊柱靭帯骨化症の治療薬となり得るか？	浅利享	医学部附属病院整形外科	700,000円	補委 日本学術振興会
Whole-body MRIを用いた新たな転移性前立腺がん治療戦略の確立	岩村大径	医学部附属病院泌尿器科	900,000円	補委 日本学術振興会
モデル動物による好酸球性中耳炎の内耳病態解明	工藤直美	医学部附属病院耳鼻咽喉科	400,000円	補委 日本学術振興会
レボドパ誘発ジスキネジアの発症機序の解明と新規薬物治療の開発	西嶋春生	医学部附属病院脳神経内科	900,000円	補委 日本学術振興会
前立腺癌におけるメタボロミクスを利用した放射線治療計画	小原秀樹	医学部附属病院医療技術部 放射線部門	1,300,000円	補委 日本学術振興会
早期肺癌の定位照射における低ヨード密度腫瘍面積・体積を用いた予後予測法の確立	田中円葵	医学部附属病院放射線治療科	900,000円	補委 日本学術振興会
AGEs-RAGE シグナルを介した、膵導管癌による膵星細胞への影響	原裕太郎	医学部附属病院消化器外科、乳癌外科、甲状腺外科	1,100,000円	補委 日本学術振興会
侵害刺激に対する瞳孔散大反射振幅の超音波画像測定による鎮痛深度モニターの可能性	紺野真緒	医学部附属病院麻酔科	300,000円	補委 日本学術振興会
PSMA標的ペプチド-MRI造影剤による前立腺癌特異的MRI画像診断法の開発	小島由太	医学部附属病院泌尿器科	1,100,000円	補委 日本学術振興会
網羅的糖鎖解析による腎癌バイオマーカーの開発	小玉寛健	医学部附属病院泌尿器科	1,000,000円	補委 日本学術振興会
既存腫瘍マーカーを凌駕する糖鎖性精巣腫瘍バイオマーカーの開発	成田拓磨	医学部附属病院泌尿器科	1,000,000円	補委 日本学術振興会
IGFBPsによる骨微小環境調節機構の解明と新規骨吸収性疾患治療への応用	伊藤良平	医学部附属病院歯科口腔外科	600,000円	補委 日本学術振興会
免疫チェックポイント阻害剤と腫瘍量減量法併用による小児固形腫瘍根治戦略	齋藤傑	医学部附属病院小児外科	1,000,000円	補委 日本学術振興会
脳波解析による術後譫妄予測アルゴリズムの確立	木下裕貴	医学部附属病院集中治療部	800,000円	補委 日本学術振興会
ロドプシン遺伝子変異網膜色素変性モデルに対するカルバイン阻害ペプチド徐放の効果	前田奈津姫	医学部附属病院眼科	1,400,000円	補委 日本学術振興会
エクオールが女性アスリートの3主徴を有する長距離走選手の骨代謝に与える影響の検討	藤田有紀	医学部附属病院整形外科	1,000,000円	補委 日本学術振興会
低酸素イメージングFRP-170-PETを用いたTH-302併用放射線治療の検討	一瀬浩司	医学部附属病院放射線治療科	1,600,000円	補委 日本学術振興会
早期変形性膝関節症診断基準の確立と診断に有用なバイオマーカーの探索	佐々木英嗣	大学院医学研究科整形外科学講座	1,200,000円	補委 日本学術振興会
視床下部室傍核CRFニューロンによる交感神経活性化：脳脊髄神経路の同定と機能解析	村澤真吾	大学院医学研究科内分泌代謝内科学講座	700,000円	補委 日本学術振興会
膵癌間質をターゲットとした新規膵癌治療戦略の開発	長瀬勇人	大学院医学研究科消化器外科学講座	700,000円	補委 日本学術振興会
膝前十字靭帯再建術後に生じる神経筋コントロールの変化の科学的解明	佐々木静	大学院医学研究科整形外科学講座	700,000円	補委 日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
有限要素法を用いた大腿骨頭壊死症の骨頭圧潰予測スコアリングシステムの開発	原田義史	大学院医学研究科整形外科講座	700,000円	補 委	日本学術振興会
変形性膝関節症に対するヒアルロン酸と多血小板血漿を併用した関節内注射治療	飯尾浩平	大学院医学研究科整形外科講座	800,000円	補 委	日本学術振興会
化学療法誘発性末梢神経障害に対するフローゼングロブの有用性の評価	赤石麻美	大学院医学研究科産科婦人科学講座	1,730,000円	補 委	日本学術振興会
地域住民を対象とした難聴関連遺伝子変異の疫学調査および早期対応の手法の確立	後藤真一	大学院医学研究科耳鼻咽喉科学講座	800,000円	補 委	日本学術振興会
パーキンソン病のエネルギー産生経路上流の異常メカニズム解明と新規治療戦略の開発	今智矢	大学院医学研究科脳神経内科学講座	1,000,000円	補 委	日本学術振興会
4-methylumbelliferoneと抗癌剤の併用による新規癌治療	吉田枝里	大学院医学研究科消化器外科講座	800,000円	補 委	日本学術振興会
ブドウ糖初期分布容量を指標とする体液評価法の確立と重症敗血症への応用	菅沼拓也	大学院医学研究科麻酔科学講座	500,000円	補 委	日本学術振興会
PSMA標的ペプチド-MRI造影剤による前立腺癌特異的中性子捕捉療法の開発	久保田優花	大学院医学研究科泌尿器科学講座	1,100,000円	補 委	日本学術振興会
去勢抵抗性前立腺癌の治療効果を予測する糖鎖関連cfDNAマーカーの開発	濱野逸人	大学院医学研究科泌尿器科学講座	1,200,000円	補 委	日本学術振興会
エクオールと生活習慣病との関連	大石舞香	大学院医学研究科女性の健康推進医学講座	700,000円	補 委	日本学術振興会
日本語版医学教育感情尺度の発展的妥当性検証：日本初の学習者感情の医学教育研究	野村理	大学院医学研究科救急・災害医学講座	1,100,000円	補 委	日本学術振興会
電子レセプト情報から傷病名を明らかにする確率計算式の開発	田中里奈	大学院医学研究科医学医療情報学講座	800,000円	補 委	日本学術振興会
Liquid biopsy法による新規副腎マーカーの開発	藤田尚紀	大学院医学研究科泌尿器科学講座	1,000,000円	補 委	日本学術振興会
アレルギー性気道炎症に対するG蛋白共役型エストロゲン受容体を介した抑制作用の機序	糸賀正道	大学院医学研究科臨床検査医学講座	1,200,000円	補 委	日本学術振興会
腹壁末梢神経ブロックは腹腔鏡手術の術野状態を改善しうるか？	野口智子	大学院医学研究科麻酔科学講座	700,000円	補 委	日本学術振興会
糖代謝イメージングを応用した治療抵抗性肉腫早期診断法の開発	小川哲也	大学院医学研究科整形外科講座	1,100,000円	補 委	日本学術振興会
膀胱癌浸潤転移に関わる新規ヒアルロニダーゼTMEM2の機能解明	米山美穂子	大学院医学研究科泌尿器科学講座	1,000,000円	補 委	日本学術振興会
PD1/PDL1の糖鎖分子を用いた免疫療法効果予測バイオマーカーの開発	堀口裕貴	大学院医学研究科泌尿器科学講座	800,000円	補 委	日本学術振興会
アレルギー性鼻炎の新規感作抑制や発症予防に関する腸内・口腔細菌叢の探究	野村彩美	大学院医学研究科耳鼻咽喉科学講座	1,300,000円	補 委	日本学術振興会
網膜色素変性患者の黄斑部視細胞障害診断法の開発	原藍子	大学院医学研究科地域医療学講座	1,100,000円	補 委	日本学術振興会
膝ACL再建術後に再断裂予防リハを実施した者の片脚着地動作の経時的な変化の解明	大見頼一	大学院医学研究科リハビリテーション医学講座	1,600,000円	補 委	日本学術振興会
腎機能低下時におけるリパーロキサパンの薬物動態への影響因子の探索	相内尚也	医学部附属病院薬剤部	430,000円	補 委	日本学術振興会
ドレーナージカテーテルの数理生物学的解析	後藤武	医学部附属病院医療技術部 臨床工学部門	470,000円	補 委	日本学術振興会
先天性骨髄不全症の登録システムの構築と診断基準・重症度分類・診断ガイドラインの確立に関する研究	伊藤悦朗	大学院医学研究科地域医療学講座	11,700,000円	補 委	厚生労働省
がん登録を利用したがん検診の精度管理方法の検討のための研究	松坂方士	医学部附属病院臨床試験管理センター	4,170,000円	補 委	厚生労働省
地域がん登録及び全国がん登録事業 R4.3.31 2800210001	松坂方士	医学部附属病院臨床試験管理センター	5,594,424円	補 委	青森県
小児およびAYA世代のランゲルハンス細胞組織球症LCHに対するシタラビン/ビンクリスチンを中心とした晩期合併症阻止を目指した新規治療法の開発と長期フォローアップ研究	工藤耕	医学部附属病院小児科	4,500,000円	補 委	国立研究開発法人成人医療研究センター
小児がん等がん調査事業	照井君典	医学研究科小児科学講座	2,969,331円	補 委	青森県

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
令和3年度青森県量子科学センター委託研究（高精度量子ビームがん治療法の開発）	大山力	医学研究科 泌尿器科学講座	2,935,000円	補 委 青森県
Down症の急性巨核芽球性白血病発症を予測する革新的バイオマーカーの開発	伊藤悦朗	医学研究科 小児科学講座	15,920,770円	補 委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
学童・思春期のこころの客観的指標と連携システムの開発	中村和彦	医学研究科 神経精神医学講座	8,076,924円	補 委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
令和3年度弘前市5歳児発達健診事業委託	斉藤まなぶ	医学研究科 神経精神医学講座	3,576,001円	補 委 弘前市
令和3年度弘前市3歳児発達検査事業委託	斉藤まなぶ	医学研究科 神経精神医学講座	1,000,000円	補 委 弘前市
高齢者の生活を支援するロボット・ICT開発研究	津田英一	医学研究科 リハビリテーション医学講座	1,000,000円	補 委 国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
「手術支援ロボットを用いた遠隔手術の実証研究」、「遠隔手術の社会実装に向けた実証研究」、「遠隔手術の通信環境構築に係る経済性の検討」、「策定する遠隔手術実施のためのガイドラインへの研究成果の反映」	袴田健一	医学研究科 消化器外科講座	14,810,820円	補 委 一般社団法人日本外科学会
医師主導治験の実施（症例登録及びプロトコル遂行）	二神真行	医学研究科 産科婦人科学講座	1,000,000円	補 委 国立大学法人千葉大学
(SCORE) 乳幼児の発達評価支援事業	斉藤まなぶ	医学研究科 神経精神医学講座	5,000,000円	補 委 国立研究開発法人科学技術振興機構
TAMにおけるGATA1遺伝子解析	伊藤悦朗	医学研究科 小児科学講座	1,000,000円	補 委 国立大学法人東海国立大学機構
ダウン症併骨髄性白血病に対する標準的治療法の確立	照井君典	医学研究科 小児科学講座	3,600,000円	補 委 国立大学法人滋賀医科大学

計149件

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Maeda T, Sakuraba H, Hiraga H, et al.	消化器内科, 血液内科, 膠原病内科	Long-term efficacy and tolerability of dose-adjusted thiopurine treatment in maintaining remission in inflammatory bowel disease patients with NUDT15 heterozygosity	Intest Res. 2022 Jan;20(1):90-100. doi: 10.5217/ir.2020.00133. Epub 2021 Jan 22.	Original Article
2	Tatsuta T, Chinda D, Mikami T, et al.	消化器内科, 血液内科, 膠原病内科	Esophageal achalasia with mucosal damage due to enteric-coated aspirin	Clin J Gastroenterol. 2021 Dec;14(6):1598-1601. doi: 10.1007/s12328-021-01494-4. Epub 2021 Aug 4.	Case report
3	Murai Y, Jo U, Murai J, et al.	消化器内科, 血液内科, 膠原病内科	Schlafen 11 expression in human acute leukemia cells with gain-of-function mutations in the interferon-JAK signaling pathway	iScience. 2021 Sep 25;24(10):103173. doi: 10.1016/j.isci.2021.103173. eCollection 2021 Oct 22.	Original Article
4	Iino C, Shimoyama T.	消化器内科, 血液内科, 膠原病内科	Impact of Helicobacter pylori infection on gut microbiota	World J Gastroenterol. 2021 Oct 7;27(37):6224-6230. doi: 10.3748/wjg.v27.i37.6224.	Original Article
5	Chinda D, Takada T, Mikami T, et al.	消化器内科, 血液内科, 膠原病内科	Spatial distribution of live gut microbiota and bile acid metabolism in various parts of human large intestine	Sci Rep. 2022 Mar 4;12(1):3593. doi: 10.1038/s41598-022-07594-6.	Original Article
6	Kikuchi H, Sakuraba H, Akemoto Y, et al.	消化器内科, 血液内科, 膠原病内科	Endoscopic and histopathologic features of Anti-PD-1-related collagenous colitis	DEN open. 2022 Jan 11;2(1):e92. doi: 10.1002/deo2.92. eCollection 2022 Apr.	Original Article
7	Murai Y, Jo U, Murai J, et al.	消化器内科, 血液内科, 膠原病内科	SLFN11 Inactivation Induces Proteotoxic Stress and Sensitizes Cancer Cells to Ubiquitin Activating Enzyme Inhibitor TAK-243.	Cancer Res. 2021 Jun 1;81(11):3067-3078. doi: 10.1158/0008-5472.CAN-20-2694.	Original Article
8	Satoshi S, Daisuke C, Yusuke T, et al.	消化器内科, 血液内科, 膠原病内科	Effective Endoscopic Closure of Cholecysto-duodenal and Transverse Colon Fistulas Due to Squamous Cell Carcinoma of the Gallbladder Using Polyglycolic Acid Sheets and a Covered Metal Stent.	Intern Med. 2021 Jun 1;60(11):1723-1729. doi: 10.2169/internalmedicine.6384-20. Epub 2020 Dec 29.	Case report
9	Itoh T, Kimura M, Tomita H.	循環器内科, 腎臓内科	Double tachycardia with His-left ventricular and interventricular dissociations	Europace. 2021 Nov 8;23(11):1866. doi: 10.1093/europace/euab100.	Case report
10	Ishida Y, Kitayama K, Hanada K, et al.	循環器内科, 腎臓内科	Diltiazem Inhibits Coronary Spasm via Inhibition of Cav1.2Phosphorylation and Protein Kinase C Activation in a Mouse Model of Coronary Spastic Angina	Int Heart J. 2021 Jul 30;62(4):910-918. doi: 10.1536/ihj.20-366. Epub 2021 Jul 17.	Original Article
11	Narita M, Hanada K, Kawamura Y, et al.	循環器内科, 腎臓内科	Rivaroxaban attenuates cardiac hypertrophy by inhibiting protease-activated receptor-2 signaling in renin-overexpressing hypertensive mice	Hypertens Res. 2021 Oct;44(10):1261-1273. doi: 10.1038/s41440-021-00700-7. Epub 2021 Jul 20.	Original Article
12	Fujita T, Nakagawa H, Yokota T, et al.	循環器内科, 腎臓内科	Nintedanib-Induced Renal Thrombotic Microangiopathy	Case Rep Nephrol Dial. 2021 Jul 22;11(2):227-232. doi: 10.1159/000517692. eCollection 2021 May-Aug.	Case report
13	Yokoyama H, Tomita H, Honda S, et al.	循環器内科, 腎臓内科	Effect of Low Body Mass Index on the Clinical Outcomes of Japanese Patients With Acute Myocardial Infarction - Results From the Prospective Japan Acute Myocardial Infarction Registry (JAMIR)	Circ J. 2022 Mar 25;86(4):632-639. doi: 10.1253/circj.CJ-21-0705. Epub 2021 Nov 20.	Original Article
14	Itoh T, Kimura M, Ishida Y, et al.	循環器内科, 腎臓内科	Multiple exit sites identification by pace mapping with a grid catheter: Which bipolar pairs are in the critical ventricular tachycardia isthmus?	HeartRhythm Case Rep. 2021 Sep 1;7(11):776-779. doi: 10.1016/j.hrccr.2021.08.009. eCollection 2021 Nov.	Case report
15	Itoh T, Kimura M, Toyama Y, et al.	循環器内科, 腎臓内科	Prolongation of a short stimulus-to-atrial interval during para-Hisian pacing: What is the mechanism?	Pacing Clin Electrophysiol. 2022 Mar;45(3):418-420. doi: 10.1111/pace.14423. Epub 2022 Jan 28.	Case report
16	Kimura M.	循環器内科, 腎臓内科	Proper Threshold of Low Voltage and Reduced Conduction Velocity in Atrial Fibrillation	Circ J. 2022 Jan 25;86(2):200-201. doi: 10.1253/circj.CJ-21-0975. Epub 2021 Dec 22.	Others
17	Nishizaki K, Itoh T, Kimura M, et al.	循環器内科, 腎臓内科	Contrast injection into the right atrial appendage apex using an external irrigation catheter for focal atrial tachycardia ablation	J Arrhythm. 2021 Dec 2;38(1):157-159. doi: 10.1002/joa3.12664. eCollection 2022 Feb.	Case report
18	Sakamoto H, Yanagitani N, Manabe R, et al.	呼吸器内科	Characteristics of central nervous system progression in non-small cell lung cancer treated with crizotinib or alectinib	Cancer Rep (Hoboken). 2021 Dec;4(6):e1414. doi: 10.1002/cnr2.1414. Epub 2021 May 7.	Original Article
19	Tanaka H, Hasegawa Y, Fujita Y, et al.	呼吸器内科	Randomized phase 2 study comparing irinotecan versus amrubicin as maintenance therapy after first-line induction therapy for extensive disease small cell lung cancer (HOT1401/NJLCG1401)	Thorac Cancer. 2021 Jul;12(14):2113-2121. doi: 10.1111/1759-7714.14048. Epub 2021 Jun 2.	Original Article
20	Dobashi M, Tanaka H, Taima K, et al.	呼吸器内科	The efficacy of nintedanib in 158 patients with idiopathic pulmonary fibrosis in real-world settings: A multicenter retrospective study	SAGE Open Med. 2021 Jun 6;9:20503121211023357. doi: 10.1177/20503121211023357. eCollection 2021.	Original Article
21	Makiguchi T, Tanaka H, Kamata K, et al.	呼吸器内科	Immune-mediated thrombocytopenia induced with durvalumab after chemoradiotherapy in a non-small cell lung cancer patient: A case report	Thorac Cancer. 2021 Oct;12(20):2811-2814. doi: 10.1111/1759-7714.14106. Epub 2021 Aug 17.	Case report
22	Makiguchi T, Fukushima T, Tanaka H, et al.	呼吸器内科	Diabetic ketoacidosis shortly after COVID-19 vaccination in a non-small-cell lung cancer patient receiving combination of PD-1 and CTLA-4 inhibitors: A case report.	Thorac Cancer. 2022 Feb 14.	Case report

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
23	Makiguchi T, Tanaka H, Taima K, et al.	呼吸器内科	The relationship between evolving sarcopenia and efficacy of immune checkpoint inhibitor in non-small cell lung cancer patients.	JCSM Clin Rep 2021 July 15. doi: 10.1002/crt2.40	Original Article
24	Itoga M, Tanaka H, Taima K, et al.	呼吸器内科	Procalcitonin expression in patients with large cell neuroendocrine carcinoma of the lung.	BMC Res Notes 2021; 14: 25. doi: 10.1186/s13104-021-05448-4	Original Article
25	Tanaka H, Taima K, Makiguchi T, et al.	呼吸器内科	Activity and bioavailability of tepotinib for leptomeningeal metastasis of NSCLC with MET exon 14 skipping mutation.	Cancer Commun (Lond). 2021 Jan 2. doi: 10.1002/cac2.12124.	Original Article
26	Tanaka H, Hasegawa Y, Makiguchi T, et al.	呼吸器内科	A Phase I/II study of biweekly carboplatin and nab-paclitaxel with concurrent radiotherapy for patients with locally advanced unresectable stage III non-small cell lung cancer.	Clin Lung Cancer 2021; 22(1): 42-48. doi: 10.1016/j.clcc.2020.09.016.	Original Article
27	Takahashi K, Mizukami H, Osonoi S, et al.	内分泌内科, 膠原病代謝内科	Inhibitory effects of xanthine oxidase inhibitor, topiroxostat, on development of neuropathy in db/db mice	Neurobiol Dis. 2021 Jul;155:105392. doi: 10.1016/j.nbd.2021.105392. Epub 2021 May 14.	Original Article
28	Takahashi K, Mizukami H, Osonoi S, et al.	内分泌内科, 膠原病代謝内科	Islet microangiopathy and augmented β -cell loss in Japanese non-obese type 2 diabetes patients who died of acute myocardial infarction	J Diabetes Investig. 2021 Dec;12(12):2149-2161. doi: 10.1111/jdi.13601. Epub 2021 Jul 1.	Original Article
29	Kageyama K, Iwasaki Y, Watanuki Y, et al.	内分泌内科, 膠原病代謝内科	Differential Effects of Fkbp4 and Fkbp5 on Regulation of the Proopiomelanocortin Gene in Murine Act-20 Corticotroph Cells	Int J Mol Sci. 2021 May 27;22(11):5724. doi: 10.3390/ijms22115724.	Original Article
30	Yamagata S, Kageyama K, Usui T, et al.	内分泌内科, 膠原病代謝内科	Identification of a homozygous c.1039C>T (p.R347C) variant in CYP17A1 in a 67-year-old female patient with partial 17 α -hydroxylase/17,20-lyase deficiency	Endocr J. 2022 Feb 28;69(2):115-120. doi: 10.1507/endocrj.EJ21-0266. Epub 2021 Sep 3.	Case report
31	Kageyama K, Iwasaki Y, Daimon M.	内分泌内科, 膠原病代謝内科	Hypothalamic Regulation of Corticotropin-Releasing Factor under Stress and Stress Resilience	Int J Mol Sci. 2021 Nov 12;22(22):12242. doi: 10.3390/ijms222212242.	Review
32	Takayasu S, Mizushiri S, Watanuki Y, et al.	内分泌内科, 膠原病代謝内科	Eosinophil counts can be a predictive marker of immune checkpoint inhibitor-induced secondary adrenal insufficiency: a retrospective cohort study	Sci Rep. 2022 Jan 25;12(1):1294. doi: 10.1038/s41598-022-05400-x.	Original Article
33	Saito M, Nakamura K, Hirota K.	神経科精神科	Concerns for labor analgesia and autism spectrum disorders	J Anesth. 2021 Apr;35(2):319-320. doi: 10.1007/s00540-020-02880-x. Epub 2020 Nov 24.	Letter
34	Sakamoto Y, Shimoyama S, Furukawa T, et al.	神経科精神科	Copy number variations in Japanese children with autism spectrum disorder	Psychiatr Genet. 2021 Jun 1;31(3):79-87. doi: 10.1097/YPG.0000000000000276.	Original Article
35	Tomita T, Sakamoto Y, Saito M, et al.	神経科精神科	Two Patients with Schizophrenia Treated with Clozapine Developed Neutropenia After Receiving a COVID-19 Vaccine	Int Med Case Rep J. 2022 Jan 28;15:29-33. doi: 10.2147/IMCRJ.S350879. eCollection 2022.	Case report
36	Koyamaishi S, Kamio T, Kobayashi A, et al.	小児科	Reduced-intensity conditioning is effective for hematopoietic stem cell transplantation in young pediatric patients with Diamond-Blackfan anemia	Bone Marrow Transplant. 2021 May;56(5):1013-1020. doi: 10.1038/s41409-020-01056-1. Epub 2020 Sep 18.	Original Article
37	Hashimoto S, Imaizumi T, Watanabe S, et al.	小児科	Expression of IFN-induced transmembrane protein 1 in glomerular endothelial cells	Pediatr Int. 2021 Sep;63(9):1075-1081. doi: 10.1111/ped.14579. Epub 2021 Jul 29.	Original Article
38	Kudo K, Sato T, Takahashi Y, et al.	小児科	Association of Multiple Gene Polymorphisms Including Homozygous NUDT15 R139C With Thiopurine Intolerance During the Treatment of Acute Lymphoblastic Leukemia	J Pediatr Hematol Oncol. 2021 Nov 1;43(8):e1173-e1176. doi: 10.1097/MPH.00000000000002085.	Case report
39	Sugita A, Hashimoto S, Sato R, et al.	小児科	Takayasu's arteritis in a girl with steroid-dependent nephrotic syndrome: Could rituximab be the culprit?	Nephrology (Carlton). 2021 Aug;26(8):693-694. doi: 10.1111/nep.13870. Epub 2021 Mar 15.	Case report
40	Sato R, Imaizumi T, Aizawa T, et al.	小児科	Inhibitory effect of anti-malarial agents on the expression of proinflammatory chemokines via Toll-like receptor 3 signaling in human glomerular endothelial cells	Ren Fail. 2021 Dec;43(1):643-650. doi: 10.1080/0886022X.2021.1908901.	Original Article
41	Umetsu H, Watanabe S, Imaizumi T, et al.	小児科	Interleukin-6 via Toll-Like Receptor 3 Signaling Attenuates the Expression of Proinflammatory Chemokines in Human Podocytes	Kidney Blood Press Res. 2021;46(2):207-218. doi: 10.1159/000514589. Epub 2021 Apr 7.	Original Article
42	Karasawa T, Kudo K, Tanita K, et al.	小児科	Epstein-Barr Virus-Negative Granulomatous Disease Due to SAP Deficiency	J Clin Immunol. 2021 Aug;41(6):1372-1375. doi: 10.1007/s10875-021-01032-4. Epub 2021 Apr 7.	Case report
43	Aizawa T, Watanabe S, Tsugawa K, et al.	小児科	Membranous nephropathy associated with Mycoplasma pneumoniae infection	Pediatr Int. 2021 Jul;63(7):853-855. doi: 10.1111/ped.14517. Epub 2021 May 7.	Case report
44	Takahashi Y, Kudo K, Ogawa K, et al.	小児科	Isolated Bone Recurrence of Medulloblastoma With MYCN Amplification and TP53 Loss: A Case Report	J Pediatr Hematol Oncol. 2022 Mar 1;44(2):e593-e596. doi: 10.1097/MPH.00000000000002234.	Case report
45	Watanabe S, Hidenori U, Hashimoto S, et al.	小児科	Sphingomyelin Phosphodiesterase Acid-Like 3b is Essential for Toll-Like Receptor 3 Signaling in Human Podocytes	J Membr Biol. 2022 Feb;255(1):117-122. doi: 10.1007/s00232-021-00206-w. Epub 2021 Nov 5.	Original Article
46	Sato R, Aizawa T, Imaizumi T, et al.	小児科	Effect of sera from lupus patients on the glomerular endothelial fibrinolysis system	Pediatr Int. 2022 Jan;64(1):e15099. doi: 10.1111/ped.15099.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
47	Kobayashi A, Ohtaka R, Toki T, et al.	小児科	Dyserythropoietic anaemia with an intronic GATA1 splicing mutation in patients suspected to have Diamond-Blackfan anaemia	eJHaem. 2022;3(1):163-167. doi: 10.1002/jha2.374.	Others
48	Imamura Y, Kowatari R, Daitoku K, et al.	呼吸器外科, 心臓血管外科	Multiorgan emboli due to an intraluminal thrombus from frozen elephant trunk	Cardiovasc Pathol. 2021 May-Jun;52:107316. doi: 10.1016/j.carpath.2020.107316. Epub 2021 Jan 14.	Case report
49	Kowatari R, Minakawa M, Daitoku K, et al.	呼吸器外科, 心臓血管外科	Coronary artery bypass for Takayasu's arteritis involving the aortic root in a child	J Card Surg. 2021 Jun;36(6):2127-2129. doi: 10.1111/jocs.15425. Epub 2021 Feb 15.	Case report
50	Imamura Y, Kowatari R, Minakawa M, et al.	呼吸器外科, 心臓血管外科	Coronary artery bypass grafting after sternal turnover procedure and a review of the literature	J Card Surg. 2021 Jun;36(6):2160-2163. doi: 10.1111/jocs.15478. Epub 2021 Mar 8.	Case report
51	Sasaki H, Kowatari R, Kondo N, et al.	呼吸器外科, 心臓血管外科	Aortic root and total arch replacement in a patient with prior ascending aortic repair for type-A aortic dissection	J Card Surg. 2021 Aug;36(8):2958-2960. doi: 10.1111/jocs.15592. Epub 2021 May 3.	Case report
52	Taguchi R, Kowatari R, Minakawa M, et al.	呼吸器外科, 心臓血管外科	An aorto-right-atrial fistula caused by infective endocarditis in a patient with an anomalous coronary artery from the opposite sinus	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2021 Aug;69(8):1251-1253. doi: 10.1007/s11748-021-01644-y. Epub 2021 May 12.	Case report
53	Saito Y, Yamamoto H, Fukuda I, et al.	呼吸器外科, 心臓血管外科	The results of aortic arch replacement using antegrade cerebral perfusion in haemodialysis patients: analysis of the Japan cardiovascular surgery database	Eur J Cardiothorac Surg. 2021 Dec 27;61(1):162-169. doi: 10.1093/ejcts/ezab252.	Original Article
54	Kowatari R, Kondo N, Watanabe S, et al.	呼吸器外科, 心臓血管外科	Urgent repair of postinfarct ventricular septal rupture with ECPPELLA support: A case report	J Card Surg. 2021 Oct;36(10):3933-3935. doi: 10.1111/jocs.15834. Epub 2021 Jul 21.	Case report
55	Kowatari R, Daitoku K, Yamazaki S, et al.	呼吸器外科, 心臓血管外科	Concomitant surgery for double-chambered right ventricle and coronary stenosis	J Card Surg. 2022 Mar;37(3):700-703. doi: 10.1111/jocs.16215. Epub 2022 Jan 7.	Case report
56	Morohashi H, Sakamoto Y, Miura T, et al.	消化器外科, 乳癌外科, 甲状腺外科	Short-term outcomes of robotic-assisted laparoscopic versus laparoscopic lateral lymph node dissection for advanced lower rectal cancer	Surg Endosc. 2021 Sep;35(9):5001-5008. doi: 10.1007/s00464-020-07979-6. Epub 2020 Oct 1.	Original Article
57	Odagiri T, Asano Y, Kagiya T, et al.	消化器外科, 乳癌外科, 甲状腺外科	The Cell Line-Dependent Diversity in Initial Morphological Dynamics of Pancreatic Cancer Cell Peritoneal Metastasis Visualized by an Artificial Human Peritoneal Model	J Surg Res. 2021 May;261:351-360. doi: 10.1016/j.jss.2020.12.046. Epub 2021 Jan 22.	Original Article
58	Morohashi H, Sakamoto Y, Miura T, et al.	消化器外科, 乳癌外科, 甲状腺外科	Effective dissection for rectal cancer with lateral lymph node metastasis based on prognostic factors and recurrence type	Int J Colorectal Dis. 2021 Jun;36(6):1251-1261. doi: 10.1007/s00384-021-03870-5. Epub 2021 Feb 1.	Original Article
59	Sato K, Shimoda H, Miura T, et al.	消化器外科, 乳癌外科, 甲状腺外科	Widespread anorectal lymphovascular networks and tissue drainage: analyses from submucosal India ink injection and indocyanine green fluorescence imaging	Colorectal Dis. 2021 Jun;23(6):1334-1345. doi: 10.1111/codi.15582. Epub 2021 Mar 1.	Original Article
60	Hakamada K, Mori M.	消化器外科, 乳癌外科, 甲状腺外科	The changing surgical scene: From the days of Billroth to the upcoming future of artificial intelligence and telerobotic surgery	Ann Gastroenterol Surg. 2021 May 29;5(3):268-269. doi: 10.1002/ags.3.12466. eCollection 2021 May.	Others
61	Sato K, Miura T, Sakamoto Y, et al.	消化器外科, 乳癌外科, 甲状腺外科	Fascial Organisation and Lymphatic Systems Around the Pelvic Floor: A Literature Review	Anticancer Res. 2021 Oct;41(10):4705-4714. doi: 10.21873/anticancer.15284.	Review
62	Ishido K, Kimura N, Wakiya T, et al.	消化器外科, 乳癌外科, 甲状腺外科	Development of a Biomarker-Based Scoring System Predicting Early Recurrence of Resectable Pancreatic Duct Adenocarcinoma	Ann Surg Oncol. 2022 Feb;29(2):1281-1293. doi: 10.1245/s10434-021-10866-6. Epub 2021 Oct 4.	Original Article
63	Wakiya T, Ishido K, Kimura N, et al.	消化器外科, 乳癌外科, 甲状腺外科	Eukaryotic initiation factor 2 signaling behind neural invasion linked with lymphatic and vascular invasion in pancreatic cancer	Sci Rep. 2021 Oct 27;11(1):21197. doi: 10.1038/s41598-021-00727-3.	Original Article
64	Wakiya T, Ishido K, Kimura N, et al.	消化器外科, 乳癌外科, 甲状腺外科	Prediction of massive bleeding in pancreatic surgery based on preoperative patient characteristics using a decision tree	PLoS One. 2021 Nov 9;16(11):e0259682. doi: 10.1371/journal.pone.0259682. eCollection 2021.	Original Article
65	Uchida C, Mizukami H, Hara Y, et al.	消化器外科, 乳癌外科, 甲状腺外科	Diabetes in Humans Activates Pancreatic Stellate Cells via RAGE in Pancreatic Ductal Adenocarcinoma	Int J Mol Sci. 2021 Oct 28;22(11):11716. doi: 10.3390/ijms22111716.	Original Article
66	Ishido K, Kimura N, Wakiya T, et al.	消化器外科, 乳癌外科, 甲状腺外科	ASO Author Reflections: Reconsidering the Treatment Strategy for Resectable Pancreatic Cancer Using a Biomarker-Based Scoring System for Prediction of Early Recurrence	Ann Surg Oncol. 2022 Feb;29(2):1294-1295. doi: 10.1245/s10434-021-10920-3. Epub 2021 Nov 22.	Original Article
67	Kanda T, Wakiya T, Ishido K, et al.	消化器外科, 乳癌外科, 甲状腺外科	Intraoperative Allogeneic Red Blood Cell Transfusion Negatively Influences Prognosis After Radical Surgery for Pancreatic Cancer: A Propensity Score Matching Analysis	Pancreas. 2021 Oct 1;50(9):1314-1325. doi: 10.1097/MPA.0000000000001913.	Original Article
68	Sasaki E, Akimoto H, Iio K, et al.	整形外科	Long-term survival rate of closing wedge high tibial osteotomy with high valgus correction: a 15-year follow-up study	Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. 2021 Oct;29(10):3221-3228. doi: 10.1007/s00167-020-06128-9. Epub 2020 Jun 29.	Original Article
69	Ishibashi Y, Adachi N, Koga H, et al.	整形外科	Erratum to "Guideline Japanese Orthopaedic Association 2019 guidelines for anterior cruciate ligament injuries" (3rd edition) [Journal of Orthopaedic Science, 25 (1) (Jan 2020) 6-45]	J Orthop Sci. 2022 Jan;27(1):296. doi: 10.1016/j.jos.2020.07.001. Epub 2020 Jul 14.	Others
70	Sasaki S, Sasaki E, Kimura Y, et al.	整形外科	Effect of medial collateral ligament release and osteophyte resection on medial laxity in total knee arthroplasty	Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. 2021 Oct;29(10):3418-3425. doi: 10.1007/s00167-020-06257-1. Epub 2020 Sep 2.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
71	Ichinohe M, Wada K, Kumagai G, et al.	整形外科	Prevalence and associated factors of radiographic vertebral fractures in men: Rural population cross-sectional observation study in Japan	J Orthop Sci. 2021 Jul;26(4):572-576. doi: 10.1016/j.jos.2020.07.014. Epub 2020 Sep 6.	Original Article
72	Kudo H, Takeuchi K, Wada K, et al.	整形外科	Ten-Year Long-term Results of Modified Cervical Double-door Laminoplasty With C3 Laminectomy Preserving the Semispinalis Cervicis Inserted Into the Axis Compared With Those of Conventional Cervical Laminoplasty	Clin Spine Surg. 2021 Apr 1;34(3):E147-E153. doi: 10.1097/BSD.0000000000001068.	Original Article
73	Kudo H, Wada K, Kumagai G, et al.	整形外科	Accuracy of pedicle screw placement by fluoroscopy, a three-dimensional printed model, local electrical conductivity measurement device, and intraoperative computed tomography navigation in scoliosis patients	Eur J Orthop Surg Traumatol. 2021 Apr;31(3):563-569. doi: 10.1007/s00590-020-02803-2. Epub 2020 Oct 14.	Original Article
74	Ichikawa N, Kumagai G, Wada K, et al.	整形外科	Coagulation, Vascular Morphology, and Vasculogenesis in Spinal Ligament Ossification Model Mice	Spine (Phila Pa 1976). 2021 Aug 1;46(15):E802-E809. doi: 10.1097/BRS.0000000000003891.	Original Article
75	Asari T, Rokunohe D, Sasaki E, et al.	整形外科	Occupational ionizing radiation-induced skin injury among orthopedic surgeons: A clinical survey	J Orthop Sci. 2022 Jan;27(1):266-271. doi: 10.1016/j.jos.2020.11.008. Epub 2020 Dec 19.	Original Article
76	Ishibashi K, Sasaki E, Ota S, et al.	整形外科	Bone marrow lesion severity was associated with proximal tibial inclination in early knee osteoarthritis	Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. 2022 Feb;30(2):668-679. doi: 10.1007/s00167-020-06378-7. Epub 2021 Jan 4.	Original Article
77	Kumagai G, Wada K, Tanaka S, et al.	整形外科	Prevalence of whiplash injury and its association with quality of life in local residents in Japan: A cross sectional study	J Orthop Sci. 2022 Jan;27(1):108-114. doi: 10.1016/j.jos.2020.12.007. Epub 2021 Jan 7.	Original Article
78	Yamauchi S, Tsukada H, Sasaki E, et al.	整形外科	Biomechanical analysis of bioabsorbable suture anchors for rotator cuff repair using osteoporotic and normal bone models	J Orthop Sci. 2022 Jan;27(1):115-121. doi: 10.1016/j.jos.2020.11.017. Epub 2021 Jan 16.	Original Article
79	Ohshika S, Saruga T, Ogawa T, et al.	整形外科	Distinction between benign and malignant soft tissue tumors based on an ultrasonographic evaluation of vascularity and elasticity	Oncol Lett. 2021 Apr;21(4):281. doi: 10.3892/ol.2021.12542. Epub 2021 Feb 10.	Original Article
80	Oishi K, Yamamoto Y, Harada Y, et al.	整形外科	Radiographic assessment of radiolucent lines around a highly porous titanium cup (Tritanium) using digital tomosynthesis, after total hip arthroplasty	J Orthop Surg Res. 2021 Apr 15;16(1):266. doi: 10.1186/s13018-021-02396-4.	Original Article
81	Chiba D, Gale T, Nishida K, et al.	整形外科	Lateral Extra-articular Tenodesis Contributes Little to Change In Vivo Kinematics After Anterior Cruciate Ligament Reconstruction: A Randomized Controlled Trial	Am J Sports Med. 2021 Jun;49(7):1803-1812. doi: 10.1177/03635465211003298. Epub 2021 Apr 19.	Original Article
82	Kamei K, Sasaki N, Sasaki E, et al.	整形外科	Association Between Osteochondritis Dissecans of the Humeral Capitellum and Medial Epicondyle Lesion in Baseball Players	Orthop J Sports Med. 2021 Apr 7;9(4):23259671211007741. doi: 10.1177/23259671211007741. eCollection 2021 Apr.	Original Article
83	Sasaki N, Uesato R, Yamauchi T, et al.	整形外科	Epidemiology of Dupuytren's Disease in Japanese General Population	J Hand Surg Asian Pac Vol. 2021 Jun;26(2):229-234. doi: 10.1142/S2424835521500235.	Original Article
84	Chiba D, Yamamoto Y, Kimura Y, et al.	整形外科	Laterally shifted tibial tunnel can be the risk of residual knee laxity for double-bundle anterior cruciate ligament reconstruction	Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. 2022 Jan;30(1):319-327. doi: 10.1007/s00167-021-06546-3. Epub 2021 Apr 30.	Original Article
85	Kumahara R, Sasaki S, Sasaki E, et al.	整形外科	Effect of a simple core muscle training program on trunk muscle strength and neuromuscular control among pediatric soccer players	J Exp Orthop. 2021 May 6;8(1):36. doi: 10.1186/s40634-021-00353-y.	Original Article
86	Oishi K, Inoue R, Yamamoto Y, et al.	整形外科	Assessment of Early Biological Fixation of Cementless Tapered-Wedge Stems Using Digital Tomosynthesis	J Arthroplasty. 2021 Sep;36(9):3209-3213. doi: 10.1016/j.arth.2021.04.021. Epub 2021 Apr 30.	Original Article
87	Kogawa M, Miura K, Yasuda K, et al.	整形外科	Effect of gait training using Hybrid Assistive Limb on gait ability and the risk for overwork weakness in the lower limb muscles in patients with neuromuscular disease: a proof-of-concept study	Eur J Phys Rehabil Med. 2021 Oct;57(5):720-730. doi: 10.23736/S1973-9087.21.06387-5. Epub 2021 Jun 9.	Original Article
88	Miura K, Tsuda E, Kogawa M, et al.	整形外科	Effects of gait training with a voluntary-driven wearable cyborg, Hybrid Assistive Limb (HAL), on quality of life in patients with neuromuscular disease, able to walk independently with aids	J Clin Neurosci. 2021 Jul;89:211-215. doi: 10.1016/j.jocn.2021.04.038. Epub 2021 May 15.	Original Article
89	Ota S, Sasaki E, Sasaki S, et al.	整形外科	Relationship between abnormalities detected by magnetic resonance imaging and knee symptoms in early knee osteoarthritis	Sci Rep. 2021 Jul 26;11(1):15179. doi: 10.1038/s41598-021-94382-3.	Original Article
90	Sasaki S, Sasaki E, Kimura Y, et al.	整形外科	Treatment Efficacy of Single Topical NSAID (S-Flurbiprofen Plaster) for Knee Symptoms and Locomotive Dysfunction in Knee Osteoarthritis Patients	Prog Rehabil Med. 2021 Jul 21;6:20210029. doi: 10.2490/prm.20210029. eCollection 2021.	Original Article
91	Sasaki E, Ota S, Chiba D, et al.	整形外科	Association Between Central Sensitization and Increasing Prevalence of Nocturnal Knee Pain in the General Population with Osteoarthritis from the Iwaki Cohort Study	J Pain Res. 2021 Aug 13;14:2449-2458. doi: 10.2147/JPR.S318038. eCollection 2021.	Original Article
92	Yamauchi S, Ishibashi K, Sasaki E, et al.	整形外科	Failure load of the femoral insertion site of the anterior cruciate ligament in a porcine model: comparison of different portions and knee flexion angles	J Orthop Surg Res. 2021 Aug 24;16(1):526. doi: 10.1186/s13018-021-02676-z.	Original Article
93	Maeda S, Chiba D, Sasaki E, et al.	整形外科	The difficulty of continuing sports activities after open-wedge high tibial osteotomy in patient with medial knee osteoarthritis: a retrospective case series at 2-year-minimum follow-up	J Exp Orthop. 2021 Aug 25;8(1):68. doi: 10.1186/s40634-021-00385-4.	Original Article
94	Sasaki S, Sasaki E, Kimura Y, et al.	整形外科	Clinical Outcomes and Postoperative Complications After All-Epiphyseal Double-Bundle ACL Reconstruction for Skeletally Immature Patients	Orthop J Sports Med. 2021 Nov 10;9(11):23259671211051308. doi: 10.1177/23259671211051308. eCollection 2021 Nov.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
95	Ono H, Kumagai G, Wada K, et al.	整形外科	Assessing the Utility of 18F-Fluorodeoxyglucose Positron Emission Tomography in the Differential Diagnosis Between Spinal Schwannomas and Meningiomas	Cureus. 2021 Oct 19;13(10):e18890. doi: 10.7759/cureus.18890. eCollection 2021 Oct.	Original Article
96	Iio K, Kimura Y, Sasaki E, et al.	整形外科	Early Return to Sports to Continue the Season after Anterior Cruciate Ligament Injury Is Not Recommended for Student Athletes	Prog Rehabil Med. 2021 Nov 26;6:20210046. doi: 10.2490/prm.20210046. eCollection 2021.	Original Article
97	Wada K, Kumagai G, Kudo H, et al.	整形外科	Association between intra-operative hemodynamic changes and corrective procedures during posterior spinal fusion in adolescent patients with scoliosis: A case-control study	Medicine (Baltimore). 2021 Dec 30;100(52):e28324. doi: 10.1097/MD.00000000000028324.	Original Article
98	Kimura Y, Yamamoto Y, Sasaki S, et al.	整形外科	Meniscus Allograft Transplantation Obtained From Adult Patients Undergoing Total Knee Arthroplasty May be Used for Younger Patients After Lateral Discoid Meniscus Meniscectomy	Arthrosc Sports Med Rehabil. 2021 Sep 10;3(6):e1679-e1685. doi: 10.1016/j.asmr.2021.07.024. eCollection 2021 Dec.	Original Article
99	Kumagai G, Wada K, Tanaka S, et al.	整形外科	Association between intraoperative computed tomography navigation system and incidence of surgical site infection in patients with spinal surgeries: a retrospective analysis	J Orthop Surg Res. 2022 Jan 29;17(1):52. doi: 10.1186/s13018-022-02936-6.	Original Article
100	Kumahara R, Kimura Y, Sasaki S, et al.	整形外科	Prevalence of Second fractures associated with anterior cruciate ligament injuries and their influence on knee joint stability: A case-control study	BMC Musculoskelet Disord. 2022 Feb 24;23(1):180. doi: 10.1186/s12891-022-05127-w.	Original Article
101	Sasaki E, Kasai T, Araki R, et al.	整形外科	Central Sensitization and Postoperative Improvement of Quality of Life in Total Knee and Total Hip Arthroplasty: A Prospective Observational Study	Prog Rehabil Med. 2022 Feb 23;7:20220009. doi: 10.2490/prm.20220009. eCollection 2022.	Original Article
102	Chiba D, Sasaki T, Ishibashi Y.	整形外科	Greater medial meniscus extrusion seen on ultrasonography indicates the risk of MRI-detected complete medial meniscus posterior root tear in a Japanese population with knee pain	Sci Rep. 2022 Mar 19;12(1):4756. doi: 10.1038/s41598-022-08604-3.	Original Article
103	Fujita T, Takeuchi K, Yokoyama T, et al.	整形外科	The effect of disruption of the repaired nuchal ligament on clinical outcomes after posterior cervical spine surgery: A retrospective comparative study	Acta Orthop Traumatol Turc. 2022 Mar;56(2):131-137. doi: 10.5152/j.aott.2022.21217.	Original Article
104	Sasaki S, Yamauchi S, Sasaki E, et al.	整形外科	Biomechanical Analysis of Unstable Osteochondral Fragment Fixation Using Three Different Techniques: Osteochondral Plug, Bioabsorbable Pin, and Suture Anchor with Tape	Arthrosc Sports Med Rehabil. 2022 Feb 14;2(2):e387-e392. doi: 10.1016/j.asmr.2021.08.019. eCollection 2022 Apr.	Original Article
105	Fujita A, Matsuzaka M, Metoki N, et al.	リハビリテーション科	Clinical Outcomes and Medical Costs of Hydration Therapy with Hydroxyethyl Starch (130/0.4) or Acute Single Infarction	J Stroke Cerebrovasc Dis. 2021 May;30(5):105705. doi: 10.1016/j.jstrokecerebrovasdis.2021.105705. Epub 2021 Mar 10.	Original Article
106	Tanaka S, Wada K, Kumagai G, et al.	リハビリテーション科	Comparison of Short-Term Clinical Results and Radiologic Changes Between Two Different Minimally Invasive Decompressive Surgical Methods for Lumbar Canal Stenosis: Lumbar Spinous Process Splitting Laminectomy and Trans-Interspinous Lumbar Decompression	Spine (Phila Pa 1976). 2021 Nov 14;46(21):E1136-E1145. doi: 10.1097/BRS.0000000000004052.	Original Article
107	Fujita A, Matsuzaka M, Metoki N, et al.	リハビリテーション科	Corrigendum to 'Clinical Outcomes and Medical Costs of Hydration Therapy with Hydroxyethyl Starch (130/0.4) for Acute Single Infarction' [Journal of Stroke and Cerebrovascular Diseases, Vol. 30, No. 5 (May), 2021: 105705]	J Stroke Cerebrovasc Dis. 2021 Oct;30(10):105867. doi: 10.1016/j.jstrokecerebrovasdis.2021.105867. Epub 2021 May 19.	Original Article
108	Makita E, Matsuzaki Y, Fukui T, et al.	皮膚科	Autoantibodies to BPAG1e Trigger Experimental Bullous Pemphigoid in Mice	J Invest Dermatol. 2021 May;141(5):1167-1176.e3. doi: 10.1016/j.jid.2020.08.031. Epub 2020 Oct 16.	Original Article
109	Yoshikawa M, Rokunohe D, Kimura A, et al.	皮膚科	Significance of IL36RN mutation analyses in the management of impetigo herpeticiformis: A case report and review of published cases	J Dermatol. 2021 May;48(5):699-702. doi: 10.1111/1346-8138.15788. Epub 2021 Feb 18.	Case report
110	Nakajima K, Korekawa A, Nakano H, et al.	皮膚科	Management of keratoacanthoma with perineural invasion: case reports and literature review	Australas J Dermatol. 2021 May;62(2):e353-e354. doi: 10.1111/ajd.13550. Epub 2021 Mar 24.	Review
111	Matsuzaki Y, Minakawa S, Sagara C, et al.	皮膚科	Atypical eosinophilic annular erythema clinically resembling granuloma annulare	Int J Dermatol. 2021 Oct;60(10):e416-e417. doi: 10.1111/ijd.15591. Epub 2021 Apr 13.	Original Article
112	Korekawa A, Nakano H, Sawamura D.	皮膚科	Widespread kerosene dermatitis associated with rhabdomyolysis	J Dermatol. 2021 Aug;48(8):e386-e387. doi: 10.1111/1346-8138.15956. Epub 2021 May 24.	Original Article
113	Minakawa S, Matsuzaki Y, Rokunohe D, et al.	皮膚科	Hidradenitis suppurativa with perifolliculitis capitis abscedens et suffodiens successfully treated with a human anti-tumour necrosis factor monoclonal antibody	Clin Exp Dermatol. 2021 Dec;46(8):1586-1588. doi: 10.1111/ced.14789. Epub 2021 Jun 29.	Case report
114	Minakawa S, Matsuzaki Y, Hashimoto T, et al.	皮膚科	A Case of Possible Concurrence of Dermatitis Herpetiformis and Linear Immunoglobulin A / Immunglobulin G Bullous Dermatitis	Acta Dermatovenol Croat. 2021 Jul;29(2):116-117.	Case report
115	Yamashita A, Akasaka E, Nakano H, et al.	皮膚科	Pembrolizumab-Induced Lichen Planus on the Scalp of a Patient with Non-Small-Cell Lung Carcinoma	Case Rep Dermatol. 2021 Oct 8;13(3):487-491. doi: 10.1159/000519486. eCollection 2021 Sep-Dec.	Case report
116	Akasaka E, Nakano H, Sawamura D.	皮膚科	Availability of mRNA Obtained from Peripheral Blood Mononuclear Cells for Testing Mutation Consequences in Dystrophic Epidermolysis Bullosa	Int J Mol Sci. 2021 Dec 13;22(24):13369. doi: 10.3390/ijms222413369.	Original Article
117	Horiguchi H, Hatakeyama S, Yoneyama T, et al.	泌尿器科	Prognostic significance of the Ki67 index and programmed death-ligand 1 expression after radical cystectomy in patients with muscle-invasive bladder cancer	Urol Oncol. 2021 Apr;39(4):238.e9-238.e17. doi: 10.1016/j.urolonc.2020.11.029. Epub 2020 Dec 8.	Original Article
118	Hatakeyama S, Naito S, Numakura K, et al.	泌尿器科	Impact of cytoreductive nephrectomy in patients with primary metastatic renal cell carcinoma receiving systemic tyrosine kinase inhibitor therapy: A multicenter retrospective study	Int J Urol. 2021 Apr;28(4):369-375. doi: 10.1111/iju.14466. Epub 2020 Dec 12.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
119	Togashi K, Hatakeyama S, Okamoto T, et al.	泌尿器科	Oncologic and patient-reported outcomes after robot-assisted radical prostatectomy in men aged ≥ 75 years	Urol Oncol. 2021 Oct;39(10):729.e17-729.e25. doi: 10.1016/j.urolonc.2020.12.001. Epub 2021 Jan 19.	Original Article
120	Hamaya T, Hatakeyama S, Tanaka T, et al.	泌尿器科	Trends in the use of neoadjuvant chemotherapy and oncological outcomes for high-risk upper tract urothelial carcinoma: a multicentre retrospective study	BJU Int. 2021 Oct;128(4):468-476. doi: 10.1111/bju.15346. Epub 2021 Feb 15.	Original Article
121	Hatakeyama S, Ohyama C.	泌尿器科	Editorial Comment from Dr Hatakeyama and Dr Ohyama to Clinical utility of head computed tomography scan during systemic therapy for metastatic renal cell carcinoma	Int J Urol. 2021 Apr;28(4):456-457. doi: 10.1111/iju.14508. Epub 2021 Feb 1.	Case report
122	Hatakeyama S, Ohyama C.	泌尿器科	Editorial Comment to Regional and facility disparities in androgen deprivation therapy for prostate cancer from a multi-institutional Japan-wide database	Int J Urol. 2021 May;28(5):591-592. doi: 10.1111/iju.14539. Epub 2021 Mar 4.	Case report
123	Kubota Y, Hatakeyama S, Yoneyama T, et al.	泌尿器科	Prognostic significance of total plasma cell-free DNA level and androgen receptor amplification in castration-resistant prostate cancer	World J Urol. 2021 Sep;39(9):3265-3271. doi: 10.1007/s00345-021-03649-x. Epub 2021 Mar 6.	Original Article
124	Okita K, Hatakeyama S, Hagiwara K, et al.	泌尿器科	The effect of number of treatment cycles of platinum-based first-line chemotherapy on maximum radiological response in patients with advanced urothelial carcinoma	Urol Oncol. 2021 Dec;39(12):832.e17-832.e23. doi: 10.1016/j.urolonc.2021.03.011. Epub 2021 Apr 14.	Original Article
125	Hatakeyama S, Yoneyama T, Tobisawa Y, et al.	泌尿器科	Narrative review of urinary glycan biomarkers in prostate cancer	Transl Androl Urol. 2021 Apr;10(4):1850-1864. doi: 10.21037/tau-20-964.	Original Article
126	Hatakeyama S, Ohyama C.	泌尿器科	Editorial Comment from Dr Hatakeyama and Dr Ohyama to Discrepancy between clinical and pathological T stages in upper urinary tract urothelial carcinoma: Analysis of the Hospital-Based Cancer Registry data in Japan	Int J Urol. 2021 Aug;28(8):820. doi: 10.1111/iju.14593. Epub 2021 May 19.	Original Article
127	Narita T, Hatakeyama S, Numakura K, et al.	泌尿器科	Comparison of pembrolizumab with conventional chemotherapy after first-line platinum-based chemotherapy for advanced urothelial carcinoma in real-world practice: A multicenter retrospective study	Int J Urol. 2021 Sep;28(9):899-905. doi: 10.1111/iju.14601. Epub 2021 May 24.	Original Article
128	Okamoto T, Noro D, Hatakeyama S, et al.	泌尿器科	Impact of pretreatment anemia on upfront abiraterone acetate therapy for metastatic hormone-sensitive prostate cancer: a multicenter retrospective study	BMC Cancer. 2021 May 25;21(1):605. doi: 10.1186/s12885-021-08206-8.	Original Article
129	Ozaki Y, Okamoto T, Miura Y, et al.	泌尿器科	Association between female urinary urgency and aponeurotic ptosis: Results from a community-based cross-sectional study in Japan	Neurourol Urodyn. 2021 Aug;40(6):1678-1685. doi: 10.1002/nau.24736. Epub 2021 Jun 26.	Original Article
130	Okita K, Hatakeyama S, Naito S, et al.	泌尿器科	External validation of the REMARCC model for the selection of cytoreductive nephrectomy in patients with primary metastatic renal cell carcinoma: A multicenter retrospective study	Urol Oncol. 2021 Dec;39(12):836.e11-836.e17. doi: 10.1016/j.urolonc.2021.08.015. Epub 2021 Sep 17.	Original Article
131	Yoneyama T, Yamamoto H, Sutoh Yoneyama M, et al.	泌尿器科	Characteristics of $\alpha 2,3$ -sialyl N-glycosylated PSA as a biomarker for clinically significant prostate cancer in men with elevated PSA level	Prostate. 2021 Dec;81(16):1411-1427. doi: 10.1002/pros.24239. Epub 2021 Sep 21.	Original Article
132	Fukushi K, Okamoto T, Ozaki Y, et al.	泌尿器科	Butyrylcholinesterase level as an independent prognostic factor for overall survival in patients on maintenance hemodialysis: a single-center retrospective study	Clin Exp Nephrol. 2022 Feb;26(2):190-197. doi: 10.1007/s10157-021-02140-6. Epub 2021 Sep 28.	Original Article
133	Konishi S, Narita T, Hatakeyama S, et al.	泌尿器科	Utility of total cell-free DNA levels for surgical damage evaluation in patients with urological surgeries	Sci Rep. 2021 Nov 11;11(1):21203. doi: 10.1038/s41598-021-01430-z.	Original Article
134	Hatakeyama S, Narita S, Okita K, et al.	泌尿器科	Management of bladder cancer in older patients	Jpn J Clin Oncol. 2022 Mar 3;52(3):203-213. doi: 10.1093/jjco/hyab187.	Original Article
135	Hatakeyama S, Ohyama C.	泌尿器科	Editorial Comment to A case of miliary tuberculosis following transurethral surgery and prostate biopsy after intravesical bacillus Calmette-Guerin immunotherapy	IJU Case Rep. 2021 Nov 11;5(1):47-48. doi: 10.1002/iju5.12387. eCollection 2022 Jan.	Original Article
136	Ozaki K, Hatakeyama S, Tanaka T, et al.	泌尿器科	The impact of eligibility for maintenance immunotherapy on prognosis in patients with unresectable or metastatic urothelial carcinoma	BJUI Compass. 2021 Oct 8;3(2):139-145. doi: 10.1002/bco2.119. eCollection 2022 Mar.	Original Article
137	Miura Y, Hatakeyama S, Tanaka T, et al.	泌尿器科	Prognostic impact of eligibility for adjuvant immunotherapy in locally advanced urothelial cancer	BJUI Compass. 2021 Oct 8;3(2):146-153. doi: 10.1002/bco2.117. eCollection 2022 Mar.	Original Article
138	Konishi S, Hatakeyama S, Imai A, et al.	泌尿器科	Effect of advanced glycation end products on nocturia or sleep disorders: A longitudinal study	BJUI Compass. 2021 Oct 5;3(2):162-168. doi: 10.1002/bco2.114. eCollection 2022 Mar.	Original Article
139	Togashi K, Yoneyama T, Sutoh Yoneyama M, et al.	泌尿器科	Renal metastasis of ovarian granulosa cell tumor	IJU Case Rep. 2022 Mar 21;5(3):186-190. doi: 10.1002/iju5.12433. eCollection 2022 May.	Original Article
140	Tobisawa Y, Fujita N, Yamamoto H, et al.	泌尿器科	The cell surface hyaluronidase TMEM2 is essential for systemic hyaluronan catabolism and turnover.	J Biol Chem. 2021 Nov;297(5):101281. doi: 10.1016/j.jbc.2021.101281. Epub 2021 Oct 6	Original Article
141	Okuyama Y, Okamoto T, Sasaki D, et al.	泌尿器科	The influence of gut microbiome on progression of overactive bladder symptoms: a community-based 3-year longitudinal study in Aomori, Japan.	Int Urol Nephrol. 2022 Jan;54(1):9-16.	Original Article
142	Ozaki K, Hatakeyama S, Hamaya T, et al.	泌尿器科	Association of oncological response between the first-line chemotherapy and subsequent immune checkpoint inhibitors therapy in patients with unresectable or metastatic urothelial carcinoma.	Int J Urol. 2021 Dec 29. doi: 10.1111/iju.14778. Online ahead of print.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
143	Sasaki D, Hatakeyama S, Kawaguchi H, et al.	泌尿器科	Effects of six-cycle completion and earlier use of radium-223 therapy on prognosis for metastatic castration-resistant prostate cancer: A real-world multicenter retrospective study.	Urol Oncol. 2022 Feb;40(2):64.e1-64.e8. doi: 10.1016/j.urolonc.2021.11.005. Epub 2021 Dec 30.	Original Article
144	Tanaka T, Hatakeyama S, Noro D, et al.	泌尿器科	Effect of upfront combination therapy on the overall survival of patients with metastatic castration-sensitive prostate cancer: A multicenter retrospective study.	Int J Urol. 2022 Feb 7. doi: 10.1111/iju.14817. Online ahead of print.	Original Article
145	Narita T, Hatakeyama S, Ohyama C	泌尿器科	Editorial Comment to Comparative oncological outcomes after radical prostatectomy or external beam radiation therapy plus androgen deprivation therapy in men with clinical T3b prostate cancer.	Int J Urol. 2022 Mar 1. doi: 10.1111/iju.14849. Online ahead of print.	Original Article
146	Sasaki D, Hatakeyama S, Tanaka T, et al.	泌尿器科	Impact of body size on skin-related adverse events in advanced prostate cancer treated with apalutamide: A multicenter retrospective study.	Int J Urol. 2022 Mar 13. doi: 10.1111/iju.14860. Online ahead of print.	Original Article
147	Tanaka M, Koji I, Fujioka I, et al.	放射線治療科	Impact of low iodine density tumor area ratio on the local control of non-small cell lung cancer through stereotactic body radiotherapy	J Radiat Res. 2021 May 12;62(3):448-456. doi: 10.1093/jrr/rrab015.	Original Article
148	Sato M, Hirose K, Ichise K, et al.	放射線治療科	Not Only Hypoxia- but Radiation-Induced Epithelial-Mesenchymal Transition Is Modulated by Hypoxia-Inducible Factor 1 in A549 Lung Cancer Cells	Folia Biol (Praha). 2021;67(2):62-69.	Original Article
149	Iino K, Fukuhara R, Yokota M, et al.	産科婦人科	Fertility awareness and subclinical infertility among women trying to get pregnant at home	BMC Womens Health. 2022 Feb 20;22(1):43. doi: 10.1186/s12905-022-01626-z.	Original Article
150	Hirota K, Lambert DG.	麻酔科	Anaesthesia-related drugs and SARS-CoV-2 infection	Br J Anaesth. 2021 Jul;127(1):e32-e34. doi: 10.1016/j.bja.2021.03.026. Epub 2021 Apr 5.	Review
151	Saito J, Hirota K.	麻酔科	Plasma volume and atrial natriuretic peptide during induction of anaesthesia	Acta Anaesthesiol Scand. 2021 Aug;65(7):1008. doi: 10.1111/aas.13849. Epub 2021 May 31.	Letter
152	Kushikata T, Hirota K, Saito J, et al.	麻酔科	Roles of Neuropeptide S in Anesthesia, Analgesia, and Sleep	Pharmaceuticals (Basel). 2021 May 19;14(5):483. doi: 10.3390/ph14050483.	Review
153	Takekawa D, Uchida S, Hirota K.	麻酔科	Delayed tracheal extubation after cardiac surgery due to cardiogenic ventilator auto-triggering: a case report	JA Clin Rep. 2021 Jul 12;7(1):55. doi: 10.1186/s40981-021-00458-4.	Case report
154	Kinoshita H, Saito J, Takekawa D, et al.	麻酔科	Availability of preoperative neutrophil-lymphocyte ratio to predict postoperative delirium after head and neck free-flap reconstruction: A retrospective study	PLoS One. 2021 Jul 13;16(7):e0254654. doi: 10.1371/journal.pone.0254654. eCollection 2021.	Original Article
155	Saito J, Yamazaki Y, Oyama T, et al.	麻酔科	Efficacy of phlebotomy after reperfusion of superior mesenteric arterial thrombosis	Anaesth Intensive Care. 2021 Jul;49(4):324-326. doi: 10.1177/0310057X21997458. Epub 2021 Jul 29.	Case report
156	Midorikawa Y, Saito J, Kitayama M, et al.	麻酔科	Intra-operative intravascular effect of the difference in colloid solutions during acute normovolemic hemodilution	JA Clin Rep. 2021 Sep 13;7(1):70. doi: 10.1186/s40981-021-00473-5.	Original Article
157	Oyama T, Kinoshita H, Takekawa D, et al.	麻酔科	Higher neutrophil-to-lymphocyte ratio, mean platelet volume, and platelet distribution width are associated with postoperative delirium in patients undergoing esophagectomy: a retrospective observational study	J Anesth. 2022 Feb;36(1):58-67. doi: 10.1007/s00540-021-03007-6. Epub 2021 Sep 30.	Original Article
158	Akaishi M, Hashiba E, Takekawa D, et al.	麻酔科	Plasma orexin A does not reflect severity of illness in the intensive care units patients with systemic inflammation	JA Clin Rep. 2022 Jan 22;8(1):7. doi: 10.1186/s40981-022-00498-4.	Original Article
159	Uchida S, Takekawa D, Kitayama M, et al.	麻酔科	Two cases of circulatory collapse due to suspected remimazolam anaphylaxis	JA Clin Rep. 2022 Mar 6;8(1):18. doi: 10.1186/s40981-022-00508-5.	Case report
160	Amanai E, Nakai K, Saito J, et al.	麻酔科	Usefulness of presepsin for the early detection of infectious complications after elective colorectal surgery, compared with C-reactive protein and procalcitonin	Sci Rep. 2022 Mar 10;12(1):3960. doi: 10.1038/s41598-022-06613-w.	Original Article
161	Shimamura N, Fumoto T, Naraoka M, et al.	脳神経外科	Irreversible Neuronal Damage Begins Just After Aneurysm Rupture in Poor-Grade Subarachnoid Hemorrhage Patients	Transl Stroke Res. 2021 Oct;12(5):785-790. doi: 10.1007/s12975-020-00875-0. Epub 2020 Nov 27.	Original Article
162	Kakuta K, Asano K, Katayama K, et al.	脳神経外科	Assessment of cerebrovascular reserve with N-isopropyl-p-[123I]-iodoamphetamine time series analysis in patients with cerebrovascular disease	Medicine (Baltimore). 2021 Apr 23;100(16):e25617. doi: 10.1097/MD.00000000000025617.	Original Article
163	Fumoto T, Kinoshita S, Sasaki T, et al.	脳神経外科	Oxidative Stress Mediates Vascular Tortuosity	Antioxidants (Basel). 2021 Jun 7;10(6):926. doi: 10.3390/antiox10060926.	Original Article
164	Asano K, Hasegawa S, Matsuzaka M, et al.	脳神経外科	Brain tumor-related epilepsy and risk factors for metastatic brain tumors: analysis of 601 consecutive cases providing real-world data	J Neurosurg. 2021 Jul 16;136(1):76-87. doi: 10.3171/2020.11.JNS202873. Print 2022 Jan 1.	Original Article
165	Asano K, Fumoto T, Matsuzaka M, et al.	脳神経外科	Combination chemoradiotherapy with temozolomide, vincristine, and interferon-β might improve outcomes regardless of O6-methyl-guanine-DNA-methyltransferase (MGMT) promoter methylation status in newly glioblastoma	BMC Cancer. 2021 Jul 28;21(1):867. doi: 10.1186/s12885-021-08592-z.	Original Article
166	Naraoka M, Matsuda N, Shimamura N, et al.	脳神経外科	Role of microcirculatory impairment in delayed cerebral ischemia and outcome after aneurysmal subarachnoid hemorrhage	J Cereb Blood Flow Metab. 2022 Jan;42(1):186-196. doi: 10.1177/0271678X211045446. Epub 2021 Sep 9.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
167	Asano K, Yamashita Y, Ono T, et al.	脳神経外科	The Real-World status and risk factors for a poor prognosis in elderly patients with primary central nervous system malignant lymphomas: a multicenter, retrospective cohort study of the Tohoku Brain Tumor Study Group	Int J Clin Oncol. 2022 Jan;27(1):77-94. doi: 10.1007/s10147-021-02042-3. Epub 2021 Oct 12.	Original Article
168	Shimamura N, Naraoka M, Katagai T, et al.	脳神経外科	Follow-up DSA at day 9 ± 2 after subarachnoid hemorrhage predicts long-term recurrence of ruptured cerebral aneurysm after coiling.	Journal of Neuroendovascular Therapy 2021; DOI https://doi.org/10.5797/jnet.0a.2020-0212.	Original Article
169	Maita H, Kobayashi T, Akimoto T, et al.	総合診療部	Non-episodic angioedema with eosinophilia undetected by an automated hematology analyzer	J Hosp Gen Med. 2021 Sep 1;3(5): 170-173.	Case report
170	Maita H, Kobayashi T, Akimoto T, et al.	総合診療部	An undiagnosed patient with skin rash, polyarthritis, and edema responding to low-dose colchicine: A case report.	SAGE Open Med Case Rep. 2021 Jun 12;9:2050313X211024508. doi: 10.1177/2050313X211024508. eCollection 2021.	Case report
171	Maita H, Kobayashi T, Akimoto T, et al.	総合診療部	A case of juvenile myoclonic epilepsy in which a disease-specific question led to the diagnosis	J Gen Fam Med. 2021 Sep 23;23(2):107-109. doi: 10.1002/jgf2.496. eCollection 2022 Mar.	Case report
172	Akimoto T, Kobayashi T, Maita H, et al.	総合診療部	Diagnostic Value of Thick-Slice Head Computed Tomography for Cerebellar Peduncle Infarction	J Hosp Gen Med. 2021 Sep 1;3(5): 170-173.	Case report
173	Akimoto T, Kobayashi T, Maita H, et al.	総合診療部	A case of Raynaud's phenomenon of toes induced by whole-body warm stimulation	J Gen Fam Med. 2021 Oct 21;23(2):113-115. doi: 10.1002/jgf2.503. eCollection 2022 Mar.	Case report
174	Maita H, Kobayashi T, Akimoto T, et al.	総合診療部	Severe edema and blood blisters of the lower extremities caused by sitagliptin, a dipeptidyl peptidase-4 inhibitor	J Gen Fam Med. 2021 Oct 14;23(2):124-125. doi: 10.1002/jgf2.502. eCollection 2022 Mar.	Case report
175	Akimoto T, Kobayashi T, Maita H, et al.	総合診療部	Non-convulsive epilepsy with acute-onset and short-lasting repeated fatigue attacks: A case of 30-year-old man	J Gen Fam Med. 2022 Feb Early view. doi: 10.1002/jgf2.531.	Case report
176	Nomura O, Wiseman J, Sunohara M, et al.	高度救命救急センター	Japanese medical learners' achievement emotions: Accounting for culture in translating Western medical educational theories and instruments into an Asian context	Adv Health Sci Educ Theory Pract. 2021 Oct;26(4):1255-1276. doi: 10.1007/s10459-021-10048-9. Epub 2021 May 12.	Original Article
177	Nomura O, Irie J, Park Y, et al.	高度救命救急センター	Evaluating Effectiveness of YouTube Videos for Teaching Medical Students CPR: Solution to Optimizing Clinician Educator Workload during the COVID-19 Pandemic	Int J Environ Res Public Health. 2021 Jul 2;18(13):7113. doi: 10.3390/ijerph18137113.	Original Article
178	Nomura O, Fukuda S, Ota E, et al.	高度救命救急センター	Monoclonal antibody and anti-cytokine biologics for Kawasaki disease: A systematic review and meta-analysis	Semin Arthritis Rheum. 2021 Oct;51(5):1045-1056. doi: 10.1016/j.semarthrit.2021.07.020. Epub 2021 Aug 2.	Original Article
179	Nomura O, Ihara T, Morikawa Y, et al.	高度救命救急センター	Predictor of Early Administration of Antibiotics and a Volume Resuscitation for Young Infants with Septic Shock	Antibiotics (Basel). 2021 Nov 19;10(11):1414. doi: 10.3390/antibiotics10111414.	Original Article
180	Nomura O, Morikawa Y, Mori T, et al.	高度救命救急センター	Limited Utility of SIRS Criteria for Identifying Serious Infections in Febrile Young Infants	Children (Basel). 2021 Nov 3;8(11):1003. doi: 10.3390/children8111003.	Original Article
181	Nomura O, Itoh T, Mori T, et al.	高度救命救急センター	Creating Clinical Reasoning Assessment Tools in Different Languages: Adaptation of the Pediatric Emergency Medicine Script Concordance Test to Japanese	Front Med (Lausanne). 2021 Dec 7;8:765489. doi: 10.3389/fmed.2021.765489. eCollection 2021.	Original Article
182	Nomura O, Michihata N, Kaneko K, et al.	高度救命救急センター	Research Publication Experience as a Requirement for Board Examination Acceptance to Promote Scholarly Activities of Pediatric Residents	JMA J. 2022 Jan 17;5(1):93-98. doi: 10.31662/jmaj.2021-0149. Epub 2021 Dec 28.	Original Article
183	Kon T, Hasui K, Suzuki C, et al.	脳神経内科	Isolated myelitis in a patient with Behcet's disease during golimumab therapy	J Neuroimmunol. 2021 May 15;354:577533. doi: 10.1016/j.jneuroim.2021.577533. Epub 2021 Mar 3.	Case report
184	Nishijima H, Kimura T, Mori F, et al.	脳神経内科	Effects of Aging on Levo-Dihydroxyphenylalanine- Induced Dyskinesia in a Rat Model of Parkinson's Disease	Front Aging Neurosci. 2021 May 13;13:650350. doi: 10.3389/fnagi.2021.650350. eCollection 2021.	Original Article
185	Kon T, Mori F, Tanji K, et al.	脳神経内科	Accumulation of Nonfibrillar TDP-43 in the Rough Endoplasmic Reticulum Is the Early-Stage Pathology in Amyotrophic Lateral Sclerosis	J Neuropathol Exp Neurol. 2022 Mar 29;81(4):271-281. doi: 10.1093/jnen/nlao015.	Original Article
186	Nishijima H, Kon T, Seino Y, et al.	脳神経内科	Bilateral Thalamic Lesions Associated With Atezolizumab-Induced Encephalitis: A Follow-up Report With Autopsy Findings	Neurology. 2022 Feb 1;98(5):204-205. doi: 10.1212/WNL.00000000000013091. Epub 2021 Nov 19.	Case report
187	Sasaki K, Yokota Y, Isojima T, et al.	腫瘍内科	Enteral lorlatinib after alectinib as a treatment option in anaplastic lymphoma kinase-positive non-small cell lung cancer with triple problems: carcinomatous meningitis, poor performance status, and dysphagia—a case report	Respirol Case Rep. 2021 Jun 3;9(7):e00796. doi: 10.1002/rcr2.796. eCollection 2021 Jul.	Case report
188	Kato N, Kamataki A, Kurotaki H.	病理部	Methylation profile of imprinted genes provides evidence for teratomatous origin of a subset of mucinous ovarian tumours	J Pathol. 2021 Aug;254(5):567-574. doi: 10.1002/path.5702. Epub 2021 Jun 2.	Original Article
189	Tatsuo S, Tsushima F, Kakehata S, et al.	放射線診断科	Effectiveness of Cytological Diagnosis with Outer Cannula Washing Solution for Computed Tomography-Guided Needle Biopsy	Acad Radiol. 2022 Mar;29(3):388-394. doi: 10.1016/j.acra.2021.02.024. Epub 2021 Mar 14.	Original Article
190	Iida S, Seino H, Nagahata F, et al.	放射線診断科	Cerebral ventriculomegaly in myotonic dystrophy type 1: normal pressure hydrocephalus-like appearances on magnetic resonance imaging	BMC Neurosci. 2021 Oct 18;22(1):62. doi: 10.1186/s12868-021-00667-8.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
191	Saito N, Itoga M, Minakawa S, et al.	検査部	Serum 3-Hydroxybutyrate in Patients with Psychogenic Somatic Symptoms May Be a Predictor of the Effectiveness of Sertraline and Venlafaxine	Int J Gen Med. 2021 May 10;14:1785-1795. doi: 10.2147/IJGM.S300517. eCollection 2021.	Original Article
192	Yamamoto K, Goto T, Ohira T, et al.	臨床工学部	The utility of extracorporeal membrane oxygenation in patients with circulatory collapse by electrical storm	J Artif Organs. 2021 Sep;24(3):407-411. doi: 10.1007/s10047-020-01233-5. Epub 2021 Jan 18.	Others
193	Goto T, Fukuda I, Inamura T, et al.	臨床工学部	Flow analysis during mock circulation in normal and aortic arch aneurysm models through an aortic cannula toward the aortic arch and root	J Artif Organs. 2021 Dec;24(4):442-449. doi: 10.1007/s10047-021-01267-3. Epub 2021 Apr 29.	Original Article

計193件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet alとする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名、出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
～					

計 件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを入力すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 委員会の構成、倫理審査申請から審査結果までの流れなど。	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年69回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 利益相反マネジメントの対象及び基準、委員会構成など。	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 1 回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 2 回
・ 研修の主な内容 倫理指針について、など。	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

弘前大学医学部附属病院の専門医養成研修プログラムは、将来その分野の先端を担う人間性豊かな良医の育成と科学的な思考能力の涵養、最先端の医療技術の習得を目標としている。そのために、大学病院ならではの症例等の豊富さ、経験豊かな先輩医師、診療科を超えた総合的診療体制、大学院在籍中でも研修可能など多くのメリットを活用して、若き医師の学位、各領域認定医・専門医の資格取得などキャリアアップを支援する体制を整えている。

平成 30 年 4 月から新専門医制度による専門研修を開始しており、当院の専門研修プログラムは、以下 19 基本領域全てを整備している。

内科、精神科、小児科、外科、整形外科、リハビリテーション科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、産婦人科、麻酔科、脳神経外科、形成外科、救急科、臨床検査、病理、総合診療

また、従来から、以下の各学会の公認する専門医養成施設となっている。

日本小児科学会、日本皮膚科学会、日本精神神経学会、日本外科学会、日本整形外科学会、日本産科婦人科学会、日本泌尿器科学会、日本医学放射線学会、日本麻酔科学会、日本病理学会、日本救急医学会、日本形成外科学会、日本消化器病学会、日本循環器学会、日本呼吸器学会、日本血液学会、日本内分泌学会、日本糖尿病学会、日本腎臓学会、日本肝臓学会、日本アレルギー学会、日本老年医学会、日本神経学会、日本消化器外科学会、呼吸器外科専門医合同委員会、三学会構成心臓血管外科専門医認定機構、日本小児外科学会、日本心身医学会、日本リウマチ学会、日本消化器内視鏡学会、日本大腸肛門病学会、日本周産期・新生児医学会、日本核医学会、日本集中治療医学会、日本輸血・細胞治療学会、日本透析医学会、日本臨床腫瘍学会、日本ペインクリニック学会、日本脳卒中学会、日本放射線腫瘍学会、日本肝胆膵外科学会、日本乳癌学会、日本呼吸器内視鏡学会、日本高血圧学会、日本手外科学会、日本婦人科腫瘍学会、日本プライマリ・ケア連合学会、日本がん治療認定医機構・日本がん治療認定医機構（歯科口腔外科）、日本熱傷学会、日本脳神経血管内治療学会、日本臨床細胞学会、日本緩和医療学会、日本頭頸部外科学会、日本インターベンショナルラジオロジー学会、日本認知症学会、日本小児循環器学会、日本生殖医学会、日本胆道学会、日本心血管インターベンション治療学会、日本小児血液・がん学会、日本心臓血管麻酔学会、日本不整脈心電学会、日本感染症学会、日本脈管学会、日本カプセル内視鏡学会、日本消化管学会、日本産科婦人科内視鏡学会、日本内分泌外科学会、日本リハビリテーション医学会、日本小児神経学会、日本女性医学学会、日本食道学会、日本脊椎脊髄病学会、日本外傷学会、日本呼吸療法医学会、日本心身医学会・日本心療内科学会合同心療内科専門医制度委員会、日本膵臓学会、日本血栓止血学会、日本腹部救急医学会、日本脳神経外傷学会、日本成人先天性心疾患学会、日本口腔外科学会、日本小児口腔外科学会、日本口腔腫瘍学会、日本口腔科学会

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	365.83人
-------------	---------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
櫻庭 裕丈	消化器内科、血液内科、膠原病内科	教授	23年	
富田 泰史	循環器内科、腎臓内科	教授	24年	
田坂 定智	呼吸器内科、感染症科	教授	31年	
大門 眞	内分泌内科、糖尿病代謝内科	教授	40年	
富山 誠彦	脳神経内科	教授	36年	
佐藤 温	腫瘍内科	教授	34年	
中村 和彦	神経科精神科	教授	32年	
照井 君典	小児科	教授	30年	
皆川 正仁	呼吸器外科、心臓血管外科	教授	26年	
袴田 健一	消化器外科、乳腺外科、甲状腺外科	教授	37年	
袴田 健一	小児外科	教授	37年	
石橋 恭之	整形外科	教授	35年	
澤村 大輔	皮膚科	教授	40年	
大山 力	泌尿器科	教授	38年	
上野 真治	眼科	教授	24年	
松原 篤	耳鼻咽喉科	教授	35年	
青木 昌彦	放射線治療科	教授	33年	
掛田 伸吾	放射線診断科	教授	26年	
横山 良仁	産科婦人科	教授	34年	
廣田 和美	麻酔科	教授	36年	
斉藤 敦志	脳神経外科	教授	24年	
漆館 聡志	形成外科	教授	27年	
花田 裕之	救急科	教授	37年	
津田 英一	リハビリテーション科	教授	32年	
富田 泰史	検査部	教授	24年	
黒瀬 顕	病理診断科	教授	35年	
加藤 博之	総合診療部	教授	38年	
小林 恒	歯科口腔外科	教授	34年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

- ・研修の主な内容
医療機器に係る安全管理
- ・研修の期間・実施回数
令和3年9月6日～令和3年9月28日(eラーニング)
- ・研修の参加人数
63名

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

- ・研修の主な内容
- ・研修の期間・実施回数
- ・研修の参加人数

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

- ・研修の主な内容
- ・研修の期間・実施回数
- ・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2). 現状
管理責任者氏名	病院長 大山 力
管理担当者氏名	事務部長 村市 悟

		保管場所	管理方法		
診療に関する諸記録	規則第二十一条の三第二項に掲げる事項	病院日誌	病歴部 医療情報部 薬剤部 放射線部	概ね電子データで管理。処方せん、持参フィルム等一部の記録は、原本を中央カルテ室で保管。 紙診療記録については、診療記録管理規程により、病院外への持ち出しを禁止している。 医療情報パソコン及びローカル保存データは、情報管理システム運用管理規程の定めにより、システム管理者の許可を得て、病院外への持ち出しができることとなっている。	
		各科診療日誌			
		処方せん			
		手術記録			
		看護記録			
		検査所見記録			
		エックス線写真			
		紹介状			
退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書					
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十一条の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	総務課	概ね電子データで管理	
		高度の医療の提供の実績	経営企画課		
		高度の医療技術の開発及び評価の実績			
		高度の医療の研修の実績	総務課		
		閲覧実績			
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課		
	掲げる事項	規則第一条の十一第一項に	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課 薬剤部	ファイル形式(紙媒体)
			医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全推進室	
			医療に係る安全管理のための委員会の開催状況		
			医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況		
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況			

		保管場所	管理方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御センター	ファイル形式(紙媒体)
		院内感染対策のための委員会の開催状況		
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況		
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況		
	医薬品安全管理責任者の配置状況	総務課		
	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部		
	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況			
	医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医事課 薬剤部		
	医療機器安全管理責任者の配置状況	総務課		
	従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学部 放射線部		
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況				
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況				

		保管場所	管理方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	総務課	ファイル形式(紙媒体)
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	総務課	
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部	
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全推進室	
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	病歴部	
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全推進室	
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全推進室	
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医事課	
		監査委員会の設置状況	総務課	
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全推進室	
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全推進室	
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	総合患者支援センター	
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	総務課	
		職員研修の実施状況	医療安全推進室	
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全推進室	
管理者が有する権限に関する状況	総務課			
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務課			
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務課			

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 ②. 現状
閲覧責任者氏名	弘前大学長 福田 眞作
閲覧担当者氏名	弘前大学医学部附属病院 事務部長 村市 悟
閲覧の求めに応じる場所	弘前大学情報公開室(弘前大学事務局棟1階)
閲覧の手續の概要 国立大学法人弘前大学情報公開取扱規程に基づき、閲覧要求に応じる。	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件
閲覧者別	医師	延	0 件
	歯科医師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 医療安全管理に関する基本的考え方 ② 医療安全管理のための組織体制 ③ 院内報告体制 ④ 安全な医療を提供するための職員研修 ⑤ 安全確保を目的とした改善のための要点 ⑥ 医療事故発生時の対応 ⑦ 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針 ⑧ 患者からの相談への対応に関する基本方針 ⑨ その他医療安全推進の要点 	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>・ 設置の有無（有・無）</p> <p>・ 開催状況：年 12 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 医療事故予防・防止に関する情報収集及び対策の検討 ② 医療事故防止マニュアルの作成 ③ 医療事故予防・防止の教育、研修の企画、立案及び実施 ④ 医療事故が発生した場合における速やかな原因究明のための調査・報告及び分析 ⑤ 医療事故の分析の結果を活用した医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の立案、実施及び院内に勤務する者への周知 ⑥ 医療事故の改善のための方策の実施状況の調査、及び必要に応じた当該方策の見直し ⑦ 医事紛争の予防・防止及びその対策 ⑧ 医療法第6条の10の規定に定められている医療事故（当該病院等に勤務する医療従事者が提供した医療に起因し、又は起因すると疑われる死亡又は死産であつて、当該管理者が当該死亡又は死産を予期しなかつたものとして厚生労働省令で定めるもの）が疑われる事例の検証 	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 2 回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 医療安全ハンドブック説明会（eラーニング） 医療安全ハンドブック説明会(DVD上映会) ② 第2回医療安全研修会（eラーニング） 第2回医療安全研修会(DVD上映会) 	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機関内における事故報告等の整備（有・無）</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 医療事故発生時、安全管理委員会への報告 ② 医療事故の事例収集・分析により、院内での問題点を把握し、改善策の企画立案及び評価の上、情報を共有 ③ 重大な医療事故発生時の管理者への報告 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 医療関連感染対策に関する基本的な考え方 ② 感染管理の組織と役割 ③ 職員に対する医療関連感染対策に関わる研修 ④ サーベイランス ⑤ 院内感染発生時の報告体制・アウトブレイク時の対応 ⑥ 医療関連感染対策のための指針閲覧に関すること ⑦ その他医療関連感染対策の推進に関する基本的な考え方 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 医療関連感染防止対策の検討 ② 医療関連感染防止マニュアルの作成 ③ 医療関連感染防止の教育、研修の実施 ④ 院内感染発生時の周知体制 ⑤ 院内感染発生時の原因分析、改善策立案・実施、職員への周知 ⑥ 委員会で立案された改善策の実施状況の調査・見直し 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 4 回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <p>医療関連感染対策のための基本的考え方及び具体的方策並びに医療関連感染対策に対する意識向上を目的とした内容をeラーニング形式にて実施。</p> <p>以下、令和3年度院内感染対策研修会実施状況<全職員対象></p> <ul style="list-style-type: none"> ① 医療安全ハンドブック説明会 「職業感染防止対策」 ② 青森県抗菌化学療法セミナー 「感染症診療マニュアルと感染症経過表のすすめ」、 「敗血症症例におけるAST活動とその影響」 ③ 感染対策研修会 「標準予防策」 ④ 青森県抗菌化学療法セミナー 「新型コロナウイルス感染症について その1」、 「新型コロナウイルス感染症について その2」 <p>また、上記研修会のDVD個別受講を実施。</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 院内感染の発生状況を把握するため、院内での感染症の発生動向の情報を共有。 ② 重大な院内感染発生時、地域の専門家等に相談が行われる体制を確保。 ③ 「新型インフルエンザ・新型コロナウイルス感染症等発生時における診療継続計画」に即した院内感染対策マニュアルを整備。 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 1 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ○医療安全ハンドブック説明会（令和3年5月17日～7月31日：e-ラーニング） 「検査・手術前に中止すべき薬剤」 	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 手順書の作成 （有・無） ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> ① 医薬品採用・購入 ② 医薬品の管理全般 ③ 患者に対する医薬品の投薬指示から調剤に関すること ④ 患者に対する与薬や服薬指導に関すること ⑤ 医薬品情報の収集・管理・提供 ⑥ 他施設との連携 	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 （有・無） ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）： <ul style="list-style-type: none"> ・ゼンタコートカプセル3mg（腸管移植片対宿主病に対する適応外使用） ・エトキシスクレロール（口腔外科領域の血管腫に対する適応外使用） ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> ① 薬剤部内ミーティングにおいて、各部門担当者より、処方せん疑義照会内容、ヒヤリハット事例、禁忌・適応外使用状況、インシデント事例、薬学的介入事例などの報告があり、全体に周知が図られている。 ② 月1回、病棟・外来常備薬の定数・使用期限チェックを実施している（向精神薬・毒薬も含む）。 ③ 調剤支援システム「PORIMS」を活用し、PTP ヒートのバーコードを読み込ませることにより薬剤の取り間違い防止対策を実施している。 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 31 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ① 医療機器の有効性・安全性 ② 医療機器の使用手法 ③ 医療機器の保守点検 ④ 医療機器不具合発生時等の対応 ⑤ 医療機器使用に関して特に法令上遵守すべき事項 ⑥ 医療機器の新規導入時研修 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無) ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 放射線部門：①毎日の始業点検と終業点検、②定期保守点検(放射線治療機器、MRI装置、CT装置、血管撮影装置)、③消耗部品の耐久時間・過去の故障実績を鑑みたスポット点検、④故障時の修理・部品交換に合わせた点検 臨床工学部門：年間点検計画に基づき、定期点検又始業点検、動作中点検を行い、安全点検システムMARISで一括管理をしている。 	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例(あれば)： <ul style="list-style-type: none"> ・ NK綿棒(手術時に組織を押さえるために使用) ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ① 添付文書等の管理 ② 医療機器に係る安全性情報等の収集 ③ 病院管理者への報告 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・責任者の資格（医師・歯科医師） ・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>医療安全管理責任者が医療安全管理委員会の委員長となっている。委員会では、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者による報告が行われている</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（2名）・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>【収集方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医薬品・医療機器等安全情報（PMDA よりメール） ・医療安全情報（日本医療機能評価機構よりメール） ・注意喚起文書（日病薬 HP） ・医薬品安全情報（製薬メーカー、医薬品販売業者）等・緊急安全性情報発出時には、薬剤システム（湯山製作所）を用いて使用患者を特定 <p>【周知方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急安全性情報は即時に全診療部門、全病棟、使用医師に印刷物を配布（医療情報端末 Web にも掲載） ・安全性速報は全診療部門、全病棟に印刷物を配布（医療情報端末 Web にも掲載） ・薬剤部医薬品情報室から定期的に発行している Drug Information に掲載 <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 把握 <ul style="list-style-type: none"> ・未承認新規医薬品医療機器を用いた医療実施申請書の確認により把握 ・各病棟担当者が当該医師に提出を依頼する「適応外使用薬剤報告書（禁忌薬剤も含む）」により把握 ② リスクの検討 <ul style="list-style-type: none"> ・未承認新規医薬品医療機器等評価部門での検討 ・未承認新規医薬品医療機器等評価委員会への審査依頼 ・医学科倫理委員会への審査依頼（必要時） ・薬剤部ミーティングで検討 ③ 妥当性等の確認 <ul style="list-style-type: none"> ・未承認新規医薬品医療機器を用いた医療審査結果通知書の結果通知で確認 ・薬剤部ミーティングで確認 ④ 処方した医師等に対し処方変更等の提案 <ul style="list-style-type: none"> ・調剤・製剤担当者による疑義照会 ・各病棟担当者からの主治医へ伝達 ⑤ 医薬品安全管理責任者への報告 <ul style="list-style-type: none"> ・副薬剤部長および薬剤部医薬品情報担当者（DI 主任）が報告 <p>・担当者の指名の有無（有・無）</p> <p>・担当者の所属・職種：</p> <p>（所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師（医薬品情報主任））</p> <p>（所属：薬剤部 ， 職種 副薬剤部長）</p>	

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有・無)</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容</p> <p>インフォームド・コンセント実施責任者は、インフォームド・コンセントの構成の遵守状況を定期的に確認し、必要な指導を行うとともに、共有すべき事例を周知又は研修で取り上げるなど情報の共有を行う。</p>	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：</p> <p>院内規程に基づきカルテ記載状況等の点検を行い、その結果を各診療科へフィードバックするとともに院内会議にて講評する。</p>	

⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
<p>・所属職員：専従 (3) 名、専任 (0) 名、兼任 (1) 名 うち医師：専従 (1) 名、専任 (0) 名、兼任 (1) 名 うち薬剤師：専従 (1) 名、専任 (0) 名、兼任 (0) 名 うち看護師：専従 (1) 名、専任 (0) 名、兼任 (0) 名 (注) 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <p>※所属職員は、有資格者であり、医療安全に関する必要な知識の修得のための研修等を受講しており、医療安全管理委員会の構成員となっている。</p> <p>・活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 医療事故の防止及び安全管理推進に係る診療科、中央診療施設等並びに病院内各部署への指導、監督 ② 診療科等が提出する患者に係る死亡報告書に基づく、病院長への報告 ③ アクシデント、インシデント及び死亡事例についての調査、情報収集、報告の集計及び分析 ④ インフォームド・コンセントの適切な実施 ⑤ 事故、その他の医療安全推進室において取り扱うことが必要なものとして病院長が認める事象が発生した場合における診療録、その他の診療に関する記録の確認、患者又はその家族への説明、当該事象の発生の原因の究明の実施、その他の対応の状況の確認及び当該確認の結果に基づく院内に勤務する者への必要な指導 ⑥ 医療に係る安全の確保に資する診療の状況の把握及び職員の医療の安全に関する意識の向上の状況の確認 ⑦ その他リスクマネジメントに関すること。 <p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。 ※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。</p>	

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	
<p>・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数 (4 件)、及び許可件数 (4 件)</p> <p>・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無 (有・無)</p>	

- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・活動の主な内容：
 - ① 高難度新規医療技術実施申請の内容確認及び評価委員会実施
 - ② 評価委員会の審議結果を申請診療科長等に通知し、病院長へ報告すること
 - ③ 定期的及び術後に患者が死亡した場合等に、手術記録、診療録等の確認、法令及び当院要項等の遵守状況の確認をし、病院長へ報告すること
 - ④ 委員会での審査資料、議事概要及び法令・要項等の遵守状況の確認の記録の保管（審査又は確認の日から少なくとも5年間）
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（5件）、及び許可件数（5件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・活動の主な内容：
 - ① 未承認新規医薬品等を用いた医療実施申請の内容確認及び評価委員会実施
 - ② 評価委員会の審議結果を申請診療科長等に通知し、病院長へ報告すること
 - ③ 定期的及び術後に患者が死亡した場合等に、手術記録、診療録等の確認、法令及び当院要項等の遵守状況の確認をし、病院長へ報告すること
 - ④ 委員会での審査資料、議事概要及び法令・要項等の遵守状況の確認の記録の保管（審査又は確認の日から少なくとも5年間）
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（有・無）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 287 件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 80 件
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
 - ① 医療事故予防・防止に関する情報収集及び対策の検討
 - ② 医療事故防止マニュアルの作成
 - ③ 医療事故予防・防止の教育、研修の企画、立案及び実施
 - ④ 医療事故が発生した場合における速やかな原因究明のための調査・報告及び分析
 - ⑤ 医療事故の分析の結果を活用した医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の立

案、実施及び院内に勤務する者への周知 ⑥ 医療事故の改善のための方策の実施状況の調査、及び必要に応じた当該方策の見直し ⑦ 医事紛争の予防・防止及びその対策 ⑧ 医療法第6条の10の規定に定められている医療事故（当該病院等に勤務する医療従事者が提供した医療に起因し、又は起因すると疑われる死亡又は死産であって、当該管理者が当該死亡又は死産を予期しなかったものとして厚生労働省令で定めるもの）が疑われる事例の検証
⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況
<ul style="list-style-type: none"> ・他の特定機能病院等への立入り（有・無）（紙面調査のみ：福島医科大学附属病院） ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（有・無）（紙面調査のみ：北海道大学病院） ・技術的助言の実施状況 特になし
⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況
<ul style="list-style-type: none"> ・体制の確保状況 総合患者支援センター内に、患者からの相談及び苦情全般に対応する部門を設置している。

⑫ 職員研修の実施状況
<ul style="list-style-type: none"> ・研修の実施状況 <ol style="list-style-type: none"> 1. 令和3年6月1日～7月31日 「医療安全ハンドブック説明会」（eラーニング） 令和3年8月17日、18日、19日 「医療安全ハンドブック説明会」（DVD上映会） 2. 令和3年9月1日～令和3年11月30日 「第2回医療安全研修会」（eラーニング） 令和3年9月8日、9日、14日、15日 「第2回医療安全研修会」（DVD上映会）

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況
<ul style="list-style-type: none"> ・研修の実施状況 <ul style="list-style-type: none"> 管理者 令和4年1月25日開催 2021年度特定機能病院管理者研修（継続・5時間） （主催：公益財団法人 日本医療機能評価機構） 医療安全管理責任者 令和3年1月17日開催

2020年度 特定機能病院管理者研修(初回・10.5時間)受講
(主催：公益財団法人 日本医療機能評価機構)

医薬品安全管理責任者

令和4年1月25日開催

2021年度 特定機能病院管理者研修(継続・5時間)

(主催：公益財団法人 日本医療機能評価機構)

医療機器安全管理責任者

令和4年1月25日開催

2021年度 特定機能病院管理者研修(継続・5時間)

(主催：公益財団法人 日本医療機能評価機構)

(注) 前年度の実績を記載すること

⑭医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・ 第三者による評価の受審状況

令和4年3月10日～3月11日の期間で、日本品質保証機構の定期審査を受審した。

【審査結果】

「今回の定期審査では、適用規格〔ISO 9001:2015〕の中で改善指摘事項が発見されませんでした。登録されているマネジメントシステムについて、システムが維持されていると判断致します。」

との本審査結果の判定により、認証登録の承認となった。

・ 評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

審査報告書(第2版)を附属病院ホームページに掲載した。(令和4年5月23日)

・ 評価を踏まえ講じた措置

審査報告書を院内各部署へ送付し、共有を図った。

(注) 記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準
<ul style="list-style-type: none"> ・ 基準の主な内容 国立大学法人弘前大学病院長の選考及び任期等に関する規程 第3条 病院長の資格は、本学の教授であって、かつ、次に掲げる要件を満たす者とする。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 医師免許を有している者 (2) 医療安全確保のための必要な資質及び能力を有している者 (3) 病院の管理運営に必要な資質及び能力を有している者 2 学長は、前項に定める要件の具体的内容について、選考を開始する前までに病院長選考基準(以下「選考基準」という。)として定め、公表するものとする。 ・ 基準に係る内部規程の公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無) ・ 公表の方法 大学及び附属病院HPに掲載。

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無) ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無) ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無) ・ 公表の方法 大学及び附属病院HPに掲載。 				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
渡邊 淳平	理事(総務担当)	○	医学部附属病院を含む本学の経営等を担当する理事として	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
廣田 和美	医学研究科長		医学教育者の代表として	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
大門 眞	医学部附属病院副 病院長		医学部附属病院において診療を担当する医師の代表として	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
井瀧 千恵子	医学部附属病院看護部長		医学部附属病院において業務を行う医療職員の代表として	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
岡井 眞	岡井公認会計士事務所所長		一般・患者の立場の者として	有 <input checked="" type="radio"/> 無
齋藤 久子	元青森大学 准教授		一般・患者の立場の者として	有 <input checked="" type="radio"/> 無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無		(有)・無	
<ul style="list-style-type: none"> ・合議体の主要な審議内容 弘前大学医学部附属病院運営会議：病院の運営方針、中期計画、予算及び決算 等 ・審議の概要の従業者への周知状況 附属病院HP内の院内専用ページに掲載 ・合議体に係る内部規程の公表の有無（有・無） ・公表の方法 附属病院HP内の院内専用ページに掲載（外部からはアクセス不可） ・外部有識者からの意見聴取の有無（有・無） 			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
大山 力	○	医師	病院長
大門 眞		医師	副病院長
袴田 健一		医師	副病院長
加藤 博之		医師	病院長補佐
石橋 恭之		医師	病院長補佐
横山 良仁		医師	病院長補佐
富田 泰史		医師	病院長補佐
漆館 聡志		医師	病院長補佐
井瀧 千恵子		看護師	病院長補佐・看護部長
小林 恒		歯科医師	歯科口腔外科科長
新岡 丈典		薬剤師	薬剤部長
村市 悟		事務職員	事務部長

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有・無）
- ・ 公表の方法
大学HPに掲載
- ・ 規程の主な内容
(人事等)
国立大学法人弘前大学管理運営規則
 - ・ 病院長は、医学部附属病院を代表し、大学の方針に従い、医学部附属病院の管理運営をつかさどる。弘前大学医学部附属病院規程 他
 - ・ 副病院長、病院長補佐等執行役職員の推薦、指名、及び院内各部署等の長、院内各委員会委員の選考、指名、任命を行う。
(契約等)
国立大学法人弘前大学会計規則
 - ・ 予算責任者を部局の長と定める。（病院長が予算責任者。）国立大学法人弘前大学予算管理規程
 - ・ 附属病院を予算部局に定める。国立大学法人弘前大学会計機関等の事務及び職位等に関する規程
 - ・ 契約担当役（会計機関）として病院長を指定する。（附属病院を含む本町地区部局の所掌に係る契約を担当）
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
副病院長：病院長の職務を助ける
(総務担当、経営担当、医療安全担当、その他)
病院長補佐：指定された事項を処理する
(教育・研修担当、研究担当、地域医療担当、看護担当、その他)
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
令和2年2月17日開催の第2回病院経営次世代リーダー養成塾に、メディカルスタッフの代表を参加させた。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	(有)・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 監査委員会の開催状況：年 2 回 ・ 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ① 医療安全管理責任者、医療安全推進室、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者等の業務について医学部附属病院長等から報告を求め、又は必要に応じて自ら確認を実施すること。 ② 必要に応じ、学長又は医学部附属病院長に対し、医療に係る安全管理についての是正措置を講ずるよう意見を表明すること。 ③ ①又は②に掲げる業務について、その結果を公表すること。 ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無 ((有)・無) ・ 委員名簿の公表の有無 ((有)・無) ・ 委員の選定理由の公表の有無 ((有)・無) ・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無 ((有)・無) ・ 公表の方法：附属病院HPに掲載 	

監査委員会の委員名簿及び選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
藤野 安弘	青森県立中央病院病院長	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有・(無)	1
相馬 悌	黒石市国民健康保険黒石病院 病院事業管理者		医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有・(無)	1
長谷河 亜希子	弘前大学人文社会科学部公共政策講座准教授		法律に関する識見を有する者	有・(無)	1
齋藤 久子	元青森大学准教授		医療を受ける者	有・(無)	2
大門 眞	弘前大学大学院医学研究科内分泌代謝内科学講座教授(副病院長)		医療に係る安全管理に関する識見を有する者	(有)・無	1
加藤 博之	弘前大学大学院医学研究科総合診療医学講座教授(病院長補佐)		医療に係る安全管理に関する識見を有する者	(有)・無	1

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

国立大学法人弘前大学コンプライアンス基本規則を制定し、コンプライアンス委員会を設置。

・学内にコンプライアンス総括責任者（理事（総務担当））を委員長とする「コンプライアンス委員会」を組織し、定期的な委員会開催により、法令遵守状況及び違反事項等の把握を行い、法令遵守の確保に努めている。

・本学におけるコンプライアンス事案発生を防止する観点から、コンプライアンスの重要性に関する認識を高め、遵守すべき法令等に関する理解の増進及び周知徹底を図る目的で「コンプライアンス研修」をeラーニング形式で実施した。また、過去に実施したコンプライアンス研修資料に加え、コンプライアンス理解度テストをホームページ上に掲載し、未受講者に対する啓発に努めている。

・ 専門部署の設置の有無（ 有 ・ 無 ）

・ 内部規程の整備の有無（ 有 ・ 無 ）

・ 内部規程の公表の有無（ 有 ・ 無 ）

・ 公表の方法

弘前大学HPに掲載

規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況

- ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況
 病院の予算執行状況等、管理運営に関する重要事項について監督する。
 - ・ ①役員会
 - ・ ②経営協議会
 - ・ ③法人内部監査（定期）
 - ・ ④監事監査（期末監事監査（監事ヒアリング））
 ①②病院の管理運営や中期計画の進捗状況などの重要事項について審議を行う。
 ③④調査票による病院の管理運営や中期計画の進捗状況などの重点事項の確認、及び病院長等へのヒアリング。
- ・ 会議体の実施状況（ 年 34 回 ）
 - ・ ①原則 月2回（8月を除く第1、3月曜日）
 - ・ ②原則 年4回（6、11、1、3月）
 - ・ ③④ 年1回
- ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ 有・無 ）
 （ ①年24回、②年9回、③④年1回 ）
- ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ 有・無 ）
- ・ 公表の方法
 弘前大学HPに掲載

病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：

- ・ ①役員会
- ・ ②経営協議会
- ・ ③法人内部監査（定期）
- ・ ④監事監査（期末監事監査（監事ヒアリング））

会議体の委員名簿

氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
①役員会			
福田 眞作	国立大学法人弘前大学	○	有・無
若林 孝一	国立大学法人弘前大学		有・無
岡本 和久	国立大学法人弘前大学		有・無
郡 千寿子	国立大学法人弘前大学		有・無
曾我 亨	国立大学法人弘前大学		有・無
石川 隆洋	国立大学法人弘前大学		有・無
佐野 輝男	国立大学法人弘前大学		有・無

氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
②経営協議会			
福田 眞作	国立大学法人弘前大学	○	有・無
若林 孝一	国立大学法人弘前大学		有・無
岡本 和久	国立大学法人弘前大学		有・無
郡 千寿子	国立大学法人弘前大学		有・無
曾我 亨	国立大学法人弘前大学		有・無

石川 隆洋	国立大学法人弘前大学		有・無
大山 力	国立大学法人弘前大学		有・無
安川 あけみ	国立大学法人弘前大学		有・無
青山 祐治	青森県		有・無
稲葉 勉	株式会社みちのく銀行		有・無
今井 高志	株式会社日産サテオ弘前		有・無
岡井 眞	岡井公認会計士事務所		有・無
木村 宏	株式会社東奥日報		有・無
櫛引 利貞	カネショウ株式会社		有・無
九戸 眞樹	元弘前市教育委員会		有・無
永澤 弘夫	弘前商工会議所		有・無
三國谷 勝範	元預金保険機構		有・無

氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
③法人内部監査			
加藤 惠吉	人文社会学部 教授	○	有・無
戸塚 学	教育学部 教授		有・無
伊東 俊司	理工学研究科 教授		有・無
長谷川 公栄	国際連携本部 調整役		有・無
三浦 尚子	研究推進部研究推進課 課長		有・無
工藤 慶伸	法人内部監査室 室長補佐		有・無
櫻庭 晋	法人内部監査室 専門職員		有・無

氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
④監事監査			
山内 浩	国立大学法人弘前大学 監事		有・無
吉田 房子	国立大学法人弘前大学 監事		有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無)・ 通報件数 (年 0 件)・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無)・ 周知の方法<ul style="list-style-type: none">・ 附属病院HPに掲載・ 新採用者オリエンテーションで説明・ 医療に係る安全管理等の研修で説明